

文学研究科

日本文学専攻

科目名	日本文学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 世阿弥の能楽理論を読み、内容を一通り理解できる。</p> <p>[授業概要] 思想大系『世阿弥・禅竹』に基づいて世阿弥伝書を読解する。特に、それぞれの興味に応じて疑問点、問題点を見出し、その解決に尽力する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] (授業前)世阿弥伝書の注釈史を押さえ、世阿弥伝書の伝本間の相違を認識しておく。 (授業後)それぞれの興味に応じた疑問点、問題点を見つけ、考察を加える。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世阿弥伝書を読む① 2. 世阿弥伝書を読む② 3. 世阿弥伝書を読む③ 4. 世阿弥伝書を読む④ 5. 世阿弥伝書を読む⑤ 6. 世阿弥伝書を読む⑥ 7. 世阿弥伝書を読む⑦ 8. 世阿弥伝書を読む⑧ 9. 世阿弥伝書を読む⑨ 10. 世阿弥伝書を読む⑩ 11. 世阿弥伝書を読む⑪ 12. 世阿弥伝書を読む⑫ 13. 世阿弥伝書を読む⑬ <p>[成績評価方法] 発表、またはレポートにより評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 日本思想大系24『世阿弥 禅竹』または日本思想大系(芸の思想・道の思想1)『世阿弥 禅竹』 著者名:表章・加藤周一 出版社:岩波書店 (9784007305153 9784000090711)</p> <p>[参考書(ISBN)] 講義時に、適宜指示する。</p>			

科目名	日本文学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 世阿弥の能楽理論を読み、内容を一通り理解できる。</p> <p>[授業概要] 思想大系『世阿弥・禅竹』に基づいて世阿弥伝書を読解する。特に、それぞれの興味に応じて疑問点、問題点を見出し、その解決に尽力する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] (授業前)世阿弥伝書の注釈史を押さえ、世阿弥伝書の伝本間の相違を認識しておく。 (授業後)それぞれの興味に応じた疑問点、問題点を見つけ、考察を加える。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世阿弥伝書を読む① 2. 世阿弥伝書を読む② 3. 世阿弥伝書を読む③ 4. 世阿弥伝書を読む④ 5. 世阿弥伝書を読む⑤ 6. 世阿弥伝書を読む⑥ 7. 世阿弥伝書を読む⑦ 8. 世阿弥伝書を読む⑧ 9. 世阿弥伝書を読む⑨ 10. 世阿弥伝書を読む⑩ 11. 世阿弥伝書を読む⑪ 12. 世阿弥伝書を読む⑫ 13. 世阿弥伝書を読む⑬ <p>[成績評価方法] 発表、またはレポートにより評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] 日本思想大系24『世阿弥 禅竹』または日本思想大系(芸の思想・道の思想1)『世阿弥 禅竹』 著者名:表章・加藤周一 出版社:岩波書店 (9784007305153 9784000090711)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 講義時に、適宜指示する。</p>			

科目名	日本文学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。</p> <p>[授業概要] まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.『御所桜堀川夜討』1 2.『御所桜堀川夜討』2 3.『御所桜堀川夜討』3 4.『お初天神記』 5.『北條時頼記』1 6.『北條時頼記』2 7.『北條時頼記』3 8.『安倍宗任松浦きぬがさ』1 9.『安倍宗任松浦きぬがさ』2 10.『安倍宗任松浦きぬがさ』3 11.『大内裏大友真鳥』1 12.『大内裏大友真鳥』2 13.『大内裏大友真鳥』3 <p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	日本文学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。</p> <p>[授業概要] まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.『国性爺合戦』1 2.『国性爺合戦』2 3.『国性爺合戦』3 4.『苺萱桑門筑紫いえずと』1 5.『苺萱桑門筑紫いえずと』2 6.『苺萱桑門筑紫いえずと』3 7.『苺萱桑門筑紫いえずと』4 8.『蘆屋道満大内鑑』1 9.『蘆屋道満大内鑑』2 10.『蘆屋道満大内鑑』3 11.『大塔宮囃鏡』1 12.『大塔宮囃鏡』2 13.『大塔宮囃鏡』3 <p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	日本文学特論 Va	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近代日本文学を作家や作品だけではなく、それを評価する枠組自体を問う視点を身につける。作家の全集を通覧し、その問題点を考察することによって、自分で論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 「全集」は一般的には、ある人の著作のすべてを集めた書物のことである。けれども、全集に収めるべき作品の範囲について見解がまとまっているわけではなく、欠落もあり、談話などの扱いは作家毎に異なる。島崎藤村の全集を中心に、さまざまな作家の全集の違いや問題点を見ることから、日本近代において作家が時代やメディアによってどのように作られてきたのかを考える。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 扱う作家全集について、凡例、談話の扱い方、全集逸文についての論文などの調査を行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 『藤村全集』第一感想集の問題点 3. 『藤村全集』第二感想集の問題点 4. 『藤村全集』第三感想集の問題点 5. 『藤村全集』第四感想集の問題点 6. 『藤村全集』第五感想集の問題点 7. 『藤村全集』第六感想集の問題点 8. 『藤村全集』童話集の問題点(1) 9. 『藤村全集』童話集の問題点(2) 10. 近代文学の全集について(1) 11. 近代文学の全集について(2) 12. 近代文学の全集について(3) 13. 近代文学の全集について(4) <p>[成績評価方法] 発表・質疑応答等(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本文学特論 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読む姿勢を身につける。</p> <p>[授業概要] 日本近現代文学の作品と、それについての論文を読んで、論を立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を読んでくる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 谷崎潤一郎(1) 3. 谷崎潤一郎(2) 4. 谷崎潤一郎(3) 5. 夏目漱石(1) 6. 夏目漱石(2) 7. 夏目漱石(3) 8. 三島由紀夫(1) 9. 三島由紀夫(2) 10. 三島由紀夫(3) 11. 作品論を批判的に読む 12. 作品論を批判的に読む 13. 作品論を書く <p>[成績評価方法] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本語学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[到達目標]

初級日本語教授法に精通することを目標とする。

[授業概要]

何冊かの初級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初級の教え方に精通することを目指す。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。
事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[授業計画]

1. 初級日本語の教え方①
2. 初級日本語の教え方②
3. 初級日本語の教え方③
4. 初級日本語の教え方④
5. 初級日本語の教え方⑤
6. 初級日本語の教え方⑥
7. 初級日本語の教え方⑦
8. 初級日本語の教え方⑧
9. 初級日本語の教え方⑨
10. 初級日本語の教え方⑩
11. 初級日本語の教え方⑪
12. 初級日本語の教え方⑫
13. 初級日本語の教え方⑬

[成績評価方法]

課題(50%)、発表(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する。

[参考書(ISBN)]

授業中に指示する。

科目名	日本語学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初中級・中上級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[到達目標]

初中級・中上級日本語の教授法に精通することを目標とする。

[授業概要]

何冊かの初中級・中上級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初中級・中上級の教え方に精通することを目指す。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。
事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[授業計画]

1. 初中級日本語の教え方①
2. 初中級日本語の教え方②
3. 初中級日本語の教え方③
4. 中級日本語の教え方①
5. 中級日本語の教え方②
6. 中級日本語の教え方③
7. 中級日本語の教え方④
8. 中級日本語の教え方⑤
9. 中級日本語の教え方⑥
10. 中級日本語の教え方⑦
11. 上級日本語の教え方①
12. 上級日本語の教え方②
13. 上級日本語の教え方③

[成績評価方法]

課題(50%)、発表(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する。

[参考書(ISBN)]

なし

科目名	日本語学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本語を対象としたコミュニケーション論・社会言語学的研究を実践する。</p> <p>[授業概要] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.まとめ</p> <p>[成績評価方法] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	日本語学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本語を対象としたコミュニケーション論や社会言語学的研究を実践する。</p> <p>[授業概要] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての発展的導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.まとめ</p> <p>[成績評価方法] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	日本語学演習Ⅲa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢字文献を精読し、そこに含まれている情報を適切な形で報告する。</p> <p>[授業概要] 有史以来、日本を含む東アジア漢字文化圏では、漢字で書かれた文献や漢字を研究対象として取り扱った文献が数多く見られる。それぞれの時代や地域の表記の実態を反映したそれらの資料(史料)は、当時の文化を知る上でも有用である。この授業では、受講者が任意の資料を取り上げ、その解読・精読に挑む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各自の進捗状況に合わせた予習を必ず行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 漢字資料の概要調査1 3. 漢字資料の概要調査2 4. 調査資料をしぼる 5. 比較する 6. 調査資料を決定し概要を述べる 7. 調査1 先行研究の整理 8. 調査2 先行研究の批判 9. 調査3 取り扱う範囲の決定 10. 調査4 資料の精読1 11. 調査5 資料の精読2 12. 調査のまとめ 13. レポート <p>※取り扱う文献は各自で決定する。例えば下記のようなものをあげるが、原則的に何でも良い。</p> <p>e.g. 甲骨文字 説文解字 玉篇 開成石經 康熙字典 平城宮木簡 正倉院文書 日本書紀 篆隸萬象名義 古今和歌集序 字鏡 類聚名義抄 和名類聚抄 字鏡集 落葉集 同文通考 小野篁歌字尽 大漢和辞典 JIS漢字</p> <p>[成績評価方法] 調査報告(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	日本語学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢字文献を精読し、そこに含まれている情報を適切な形で報告する。</p> <p>[授業概要] 有史以来、日本を含む東アジア漢字文化圏では、漢字で書かれた文献や漢字を研究対象として取り扱った文献が数多く見られる。それぞれの時代や地域の表記の実態を反映したそれらの資料(史料)は、当時の文化を知る上でも有用である。この授業では、受講者が任意の資料を取り上げ、その解説・精読に挑む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各自の進捗状況に合わせた予習を必ず行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 漢字資料の概要調査1 3. 漢字資料の概要調査2 4. 調査資料をしぼる 5. 比較する 6. 調査資料を決定し概要を述べる 7. 調査1 先行研究の整理 8. 調査2 先行研究の批判 9. 調査3 取り扱う範囲の決定 10. 調査4 資料の精読1 11. 調査5 資料の精読2 12. 調査のまとめ 13. レポート <p>※取り扱う文献は各自で決定する。例えば下記のようなものをあげるが、原則的に何でも良い。</p> <p>e.g. 甲骨文字 説文解字 玉篇 開成石經 康熙字典 平城宮木簡 正倉院文書 日本書紀 篆隸萬象名義 古今和歌集序 字鏡 類聚名義抄 和名類聚抄 字鏡集 落葉集 同文通考 小野篁歌字尽 大漢和辞典 JIS漢字</p> <p>[成績評価方法] 調査報告(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	日本語学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[到達目標]

初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。

[授業概要]

何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。

事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[授業計画]

1. 授業の準備と進め方

2. 『みんなの日本語初級 I 』①
3. 『みんなの日本語初級 I 』②
4. 『みんなの日本語初級 I 』③
5. 『みんなの日本語初級 I 』④
6. 『みんなの日本語初級 II 』①
7. 『みんなの日本語初級 II 』②
8. 『みんなの日本語初級 II 』③
9. 『みんなの日本語初級 II 』④
10. 『初級日本語げんき I 』①
11. 『初級日本語げんき I 』②
12. 『初級日本語げんき I 』③
13. 『初級日本語げんき I 』④

[成績評価方法]

課題(50%)、発表(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する。 著者名:なし

[参考書(ISBN)]

なし

科目名	日本語学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[到達目標]

初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。

[授業概要]

何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。

事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[授業計画]

1. 『初級日本語げんきⅡ』①
2. 『初級日本語げんきⅡ』②
3. 『初級日本語げんきⅡ』③
4. 『初級日本語げんきⅡ』④
5. 『初級日本語げんきⅡ』⑤
6. 『できる日本語初級』①
7. 『できる日本語初級』②
8. 『できる日本語初級』③
9. 『できる日本語初級』④
10. 『できる日本語初級』⑤
11. 『できる日本語初級初中級』①
12. 『できる日本語初級初中級』②
13. 『できる日本語初級初中級』③

[成績評価方法]

課題(50%)、発表(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する。

[参考書(ISBN)]

授業中に指示する。

科目名	日本語学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。</p> <p>[授業概要] この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつお理解しておくことが前提である。 各回、予習・復習に4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.導入 方言文法の世界 2.記述文法と規範文法 3.文法記述の方法1 形態論 4.文法記述の方法2 統語論 5.文法記述の方法3 運用の問題 6.日本語諸方言の文法 格(1) 7.日本語諸方言の文法 格(2) 8.日本語諸方言の文法 とりたて(1) 9.日本語諸方言の文法 とりたて(2) 10.日本語諸方言の文法 主題(1) 11.日本語諸方言の文法 主題(2) 12.日本語諸方言の文法 ヴォイス(1) 13.日本語諸方言の文法 ヴォイス(2)</p> <p>[成績評価方法] 授業中課題(50%)、レポート(50%) 授業中課題は授業中にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	日本語学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。</p> <p>[授業概要] この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつお理解しておくことが前提である。 各回、予習・復習に4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.導入 方言文法の世界 2.方言記述文法について 3.日本語方言の文法 肯否 4.日本語諸方言の文法 授受(1) 5.日本語諸方言の文法 授受(2) 6.日本語諸方言の文法 アスペクト(1) 7.日本語諸方言の文法 アスペクト(2) 8.日本語諸方言の文法 テンス(1) 9.日本語諸方言の文法 テンス(2) 10.日本語諸方言の文法 モダリティ(1) 11.日本語諸方言の文法 モダリティ(2) 12.日本語諸方言の文法 複文(1) 13.日本語諸方言の文法 複文(2) <p>[成績評価方法] 授業中課題(50%)、レポート(50%) 授業中課題は授業中にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	日本語学特論Ⅲa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 基本漢字文献について知識を深め、その特徴を記述できる。</p> <p>[授業概要] 近代日本における基本漢字文献を調査し、その特徴や作成目的、対象とする層、包含する漢字集合などについて言及する。文献は2週にわたって検討し、1週目は実際にその文献を読み解いて理解を深め、2週目に関連する先行研究類等の調査・分析を行う。 後期科目の日本語学特論Ⅲbとの直接的な連続性はないが、あわせて履修することが望ましい。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 取り扱う文献について事前によく調べておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 総論 2. 前島来輔[1866]「漢字御廃止之議」 1 3. 前島来輔[1866]「漢字御廃止之議」 2 4. 文部省編[1873]「新撰字書」 1 5. 文部省編[1873]「新撰字書」 2 6. 福澤諭吉[1873]『文字之教』 1 7. 福澤諭吉[1873]『文字之教』 2 8. 郵便報知新聞[1887]「三千字字引」 1 9. 郵便報知新聞[1887]「三千字字引」 2 10. Lay, Arthur Hyde [1895] Chinese Characters for the Use of Students of the Japanese Language 1 11. Lay, Arthur Hyde [1895] Chinese Characters for the Use of Students of the Japanese Language 2 12. 重野安繹[1899]「常用漢字文」 1 13. 重野安繹[1899]「常用漢字文」 2 <p>[成績評価方法] 調査報告(60%)、レポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 日本語文字論の挑戦</p>			

科目名	日本語学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 基本漢字文献について知識を深め、その特徴を記述できる。</p> <p>[授業概要] 近代日本における基本漢字文献を調査し、その特徴や作成目的、対象とする層、包含する漢字集合などについて言及する。文献は2週にわたって検討し、1週目は実際にその文献を読み解いて理解を深め、2週目に関連する先行研究類等の調査・分析を行う。 前期科目の日本語学特論Ⅲaとの直接的な連続性はないが、あわせて履修することが望ましい。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 取り扱う文献について事前によく調べておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 総論 2. Chamberlain, Basil Hall [1899]『文字のしるべ』(A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing.) 1 3. Chamberlain, Basil Hall [1899]『文字のしるべ』(A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing.) 2 4. 川田鐵彌・佐藤乾三編[1901]『漢字用例』 1 5. 川田鐵彌・佐藤乾三編[1901]『漢字用例』 2 6. 安達常正[1909]『漢字の研究』 1 7. 安達常正[1909]『漢字の研究』 2 8. 後藤朝太郎[1912]『教育上より見たる明治の漢字』 1 9. 後藤朝太郎[1912]『教育上より見たる明治の漢字』 2 10. 日下部重太郎[1933]『現代国語思潮 続編』 1 11. 日下部重太郎[1933]『現代国語思潮 続編』 2 12. 大西雅雄[1941]『日本基本漢字』 1 13. 大西雅雄[1941]『日本基本漢字』 2 <p>[成績評価方法] 調査報告(60%)、レポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 日本語文字論の挑戦</p>			

科目名	日本文学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 謡曲作品の読解を通して、研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。</p> <p>[授業概要] 担当者は、作品の内容を吟味しつつ、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけて、その解明に取り組む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] (授業前)謡曲作品を選び、作品の背景や研究史を確認する。 (授業後)それぞれの興味に応じた研究課題を見つけ、その解明に取り組む。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[授業計画] 1. 読解演習① 2. 読解演習② 3. 読解演習③ 4. 読解演習④ 5. 読解演習⑤ 6. 読解演習⑥ 7. 読解演習⑦ 8. 読解演習⑧ 9. 読解演習⑨ 10. 研究演習① 11. 研究演習② 12. 研究演習③ 13. 研究演習④</p> <p>[成績評価方法] 発表(40%)とレポート(60%)により評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 新潮日本古典集成『謡曲集 上・中・下』三冊 著者名:伊藤正義 出版社:新潮社 日本古典文学大系『謡曲集 上・下』2冊 著者名:横道万里雄・表章 出版社:岩波書店</p>			

科目名	日本文学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 謡曲作品の読解を通して、研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。</p> <p>[授業概要] 担当者は、作品の内容を吟味しつつ、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけ、その解明に取り組む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] (授業前) 謡曲作品を選び、作品の背景や研究史を確認する。 (授業後) 作品研究論文を読み、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけ、その解明に取り組む。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読解演習① 2. 読解演習② 3. 読解演習③ 4. 読解演習④ 5. 読解演習⑤ 6. 論文演習① 7. 論文演習② 8. 論文演習③ 9. 論文演習④ 10. 研究演習① 11. 研究演習② 12. 研究演習③ 13. 研究演習④ <p>[成績評価方法] 発表(40%)とレポート(60%)により評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 新潮日本古典集成『謡曲集 上・中・下』三冊 著者名:伊藤正義 出版社:新潮社 日本古典文学大系『謡曲集 上・下』2冊 著者名:横道万里雄・表章 出版社:岩波書店</p>			

科目名	日本文学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。</p> <p>[授業概要] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.『浄土さんたん記井おはら問答』1 2.『浄土さんたん記井おはら問答』2 3.『浄土さんたん記井おはら問答』3 4.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』1 5.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』2 6.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』3 7.『ちんぜいノ八郎ためとも』1 8.『ちんぜいノ八郎ためとも』2 9.『ちんぜいノ八郎ためとも』3 10.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』1 11.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』2 12.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』3 13.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』4 <p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	日本文学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。</p> <p>[授業概要] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.『忍四季揃』1 2.『忍四季揃』2 3.『忍四季揃』3 4.『忍四季揃』4 5.『忍四季揃』5 6.『忍四季揃』6 7.『忍四季揃』7 8.『古播磨風筑後丸』1 9.『古播磨風筑後丸』2 10.『古播磨風筑後丸』3 11.『古播磨風筑後丸』4 12.『古播磨風筑後丸』5 13.『古播磨風筑後丸』6 <p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	日本文学演習 Va	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代文学の作品の読み方、分析のしかた、調べ方、論の展開のしかたを習得する</p> <p>[授業概要] 太宰治の作品を、時代背景、言葉や表現の特徴などに留意して読み、論じる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を毎週読んで、それについて書いてくる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 文献検索のしかた 3. 夏目漱石の作品を読む(1) 4. 夏目漱石の作品を読む(2) 5. 夏目漱石の作品を読む(3) 6. 夏目漱石の作品を読む(4) 7. 夏目漱石の作品を読む(5) 8. 夏目漱石の作品を読む(6) 9. 夏目漱石の作品を読む(7) 10. 夏目漱石の作品について論じる(1) 11. 夏目漱石の作品について論じる(2) 12. 夏目漱石の作品について論じる(3) 13. 作品を論じる <p>[成績評価方法] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本文学演習 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読み、論文を批判的に読み、論じる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 大江健三郎の作品についての論文を、批判的に読み、それを踏まえて自分の論を立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を毎週読み、課題について書いてくる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索のしかた 2. 北村透谷の作品について論文を検索する 3. 北村透谷の作品についての論文を読む(1) 4. 北村透谷の作品についての論文を読む(2) 5. 北村透谷の作品についての論文を読む(3) 6. 北村透谷の作品についての論文を読む(4) 7. 北村透谷の作品について分析する(1) 8. 北村透谷の作品について分析する(2) 9. 北村透谷の作品について分析する(3) 10. 北村透谷の時代と思想(1) 11. 北村透谷の時代と思想(2) 12. 北村透谷の時代と思想(3) 13. 北村透谷の作品について論文を書く <p>[成績評価方法] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する。</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習併せて2時間以上。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜相談する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜、指示する。</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習併せて2時間以上。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜相談する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜、指示する。</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時指示する</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を調べておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成。</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を調べておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p>			

英文学専攻

科目名	英語学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	形式意味論 (1)		
担当者	吉本 真由美		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

- ・Portner (2005)の精読を通して、形式意味論の扱う問題や研究手法を理解する。
- ・形式意味論における研究課題を見つけて議論し、分析を進める力を身につける。

[授業概要]

授業ではPaul H. Portner著 What is Meaning?: Fundamentals of Formal Semantics (Blackwell Publishing, 2005)を精読し、議論をする。受講生は指定の箇所の内容を資料にまとめて発表する。その後、疑問点や問題点について議論していく。また、各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

- ・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。
- ・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。

[授業計画]

1. The Fundamental Question
2. Putting a Meaning Together from Pieces (1)
3. Putting a Meaning Together from Pieces (2)
4. More about Predicates (1)
5. More about Predicates (2)
6. Modifiers (1)
7. Modifiers (2)
8. Complexities of Referring Expressions (1)
9. Complexities of Referring Expressions (2)
10. 課題レポート中間発表
11. Quantifiers (1)
12. Quantifiers (2)
13. まとめ

[成績評価方法]

発表を含めた授業参加(50%) + レポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書 (ISBN)]

What is Meaning?: Fundamentals of Formal Semantics 著者名: Paul H. Portner 出版社: Blackwell Publishing, 2005 (978-1405109185)

[参考書 (ISBN)]

授業中に指示する。

科目名	英語学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	形式意味論 (2)		
担当者	吉本 真由美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
<ul style="list-style-type: none"> ・Portner (2005)の精読を通して、形式意味論の扱う問題や研究手法を理解する。 ・形式意味論における研究課題を見つけて議論し、分析を進める力を身につける。 			
[授業概要]			
この授業では前期の「英語学演習b」に引き続き、Paul H. Portner著 What is Meaning?: Fundamentals of Formal Semantics (Blackwell Publishing, 2005)を精読し、議論をする。受講生は指定の箇所の内容を資料にまとめて発表する。その後、疑問点や問題点について議論していく。また、各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。 ・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。 			
[授業計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Extensional vs. Intensional Contexts 2. Tense, Aspect, and Modality (1) 3. Tense, Aspect, and Modality (2) 4. Propositional Attitudes (1) 5. Propositional Attitudes (2) 6. The Pragmatics of What's Given (1) 7. The Pragmatics of What's Given (2) 8. The Pragmatics of Inference (1) 9. The Pragmatics of Inference (2) 10. 課題レポート中間発表 11. Formal Semantics Today (1) 12. Formal Semantics Today (2) 13. まとめ 			
[成績評価方法]			
発表を含めた授業参加(50%) + レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
What is Meaning?: Fundamentals of Formal Semantics 著者名: Paul H. Portner 出版社: Blackwell Publishing, 2005 (978-1405109185)			
[参考書 (ISBN)]			
授業中に指示する。			

科目名	英語学特論a	前期	2 単位
サブタイトル	幼児の母語獲得と普遍文法の関わり		
担当者	吉本 真由美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語・英語の成人および幼児の発話を客観的に観察し、それぞれの母語話者がどのような文法知識を持っているかを分析できる。 ・なぜ子供は母語知識を獲得できるのか、という問いに、生成文法理論の観点から説明できる。 <p>[授業概要]</p> <p>私たち人間は、生まれてから一定期間の間に周囲の人々が発する言語に触れることによって自然と母語を獲得することができる。母語知識の獲得には、周囲からの言語情報が大きく寄与することは間違いないが、幼児が接する言語情報は限定的なものともいえる。なぜ私たちは、限定的な言語情報から、自由に文を生成する能力を獲得することができるのだろうか。この授業では、この疑問に対するひとつの答えとして、生成文法理論が仮定する「普遍文法」を紹介し、母語の獲得には生まれる前からの知識が関わっているという仮説について考察する。</p> <p>主に英語と日本語を取り上げ、母語の知識がどのようなものであるのかを、成人および幼児の発話から考える。母語知識の獲得と普遍文法がどのように関わるのかを、さまざまな用例から分析する。授業は教科書を使いながら、発表担当者による内容紹介と、教員からの解説によって進める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。 <p>※各回、予習復習合わせて4 時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 普遍文法について 2. 他動詞文の階層構造 3. yes/no疑問文と数量詞遊離に見られる構造依存性 4. 移動現象に見られる制約 5. wh疑問文に対する制約 6. whyや「なぜ」を含む文に対する制約 7. スルーシングに対する制約 8. 言語間の差異とパラメータ 9. 英語の獲得過程に見られる主語の誤り 10. 幼児が発する長いwh疑問文に見られる誤り 11. 関係詞節の習得 12. 名詞複合とパラメータ 13. まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中の課題(30%)＋レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをする。 レポートは講評を付けて返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>はじめての言語獲得 著者名: 杉崎鉦司 出版社: 岩波書店 (978-4-00-005839-1)</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>授業中に指示する。</p>			

科目名	英語学特論b	後期	2 単位
サブタイトル	英文の統語的・意味的分析		
担当者	吉本 真由美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
<ul style="list-style-type: none"> ・生成文法理論における統語分析の基礎を理解する。 ・文の構成要素がどのように組み合わさって文が生成されているのかを、様々な構文を用いて分析できる。 ・文の構造・意味が科学的な分析によって計算できるものであることを理解する。 			
[授業概要]			
<p>この授業ではまず、「英語学」という幅広い研究分野において、生成文法理論がどのように位置づけられているのかということや、生成文法理論が何を目標としているのかを確認し、句構造に関する一般的理論(X-bar理論)、構造と意味に関わる分析(c-command, theta-role)など、生成文法理論を用いて分析をするうえで必要となる基本的事項を確認する。その上で、要素の移動に関わる構文(wh疑問文や比較構文等)とその制約について観察する。先行研究の変遷を追って、様々な言語現象に対して古くから用いられている基本的な分析方法を理解し、そこから発展してきた最新の分析まで知見を広げる。</p>			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。 <p>※各回、予習復習合わせて4 時間程度</p>			
[授業計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 授業概要、扱う現象について 2. 認知科学としての統語論 3. 構成素と句構造規則 4. 補部と付加部、Xバー理論 5. 主要部移動 6. wh移動 7. wh移動にみられる制約 8. そのほかの演算子移動 9. 削除現象 10. 比較構文(1): 統語的特徴 11. 比較構文(2): 意味論的特徴 12. 比較構文(3): 日英語比較 13. まとめ 			
[成績評価方法]			
<p>授業中の課題(30%)＋レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをします。 レポートは講評を付けて返却します。</p>			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
<p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
[教科書(ISBN)]			
<p>資料を授業中に配布する。</p>			
[参考書(ISBN)]			
<p>授業中に指示する。</p>			

科目名	英文学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	18世紀の英国喜劇を読む		
担当者	西出 良郎		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

今から240年以上前に書かれた戯曲であるので、英語自体は若干難しいが、まずテキストをきちんと正確に読め、1660年以降から18世紀前半にかけての英国の演劇史の流れを念頭に置いて、この作品が持つ演劇史的意義を明らかにすることを目標とする。

[授業概要]

18世紀の英国は演劇が不毛の時代だと言われる。有名な俳優は出たが、肝心の演劇作品と言う点では、演劇史に残るような作品は少ない。本演習で取り上げるのは Oliver Goldsmith の *She Stoops to Conquer* (1773) という喜劇であり、この喜劇はいまだに英国の舞台で演じられている。

Wit よりも humour と nature を主眼とするこの喜劇は我々日本人にも大いに受けると思われるが、劇作家の知名度が低いため、我が国で上演された例は皆無である。とにかく愉快的な喜劇であるので、18世紀という時代背景とユーモアに満ちたこの作品を毎回数頁程度精読しながらじっくりと味わいたい。

なお、受講生との相談により、教材の変更もあり得る。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

授業当日の予習は不可欠である。

[授業計画]

1. Introduction
2. Act I
3. Act I
4. Act I
5. Act I
6. Act I
7. Act I
8. Act II
9. Act II
10. Act II
11. Act II
12. Act II
13. Review

[成績評価方法]

授業への取り組み(50%), レポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する。

[参考書(ISBN)]

授業中指示する。

科目名	英文学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	18世紀の英国喜劇を読む		
担当者	西出 良郎		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 今から240年以上前に書かれた戯曲であるので、英語自体は若干難しいが、まずテキストをきちんと正確に読み、1660年以降から18世紀前半にかけての英国の演劇史の流れを念頭に置いて、この作品が持つ演劇史的意義を明らかにすることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 前期に引き続いて行う授業であるが、後期からの受講でも可。 18世紀の英国は演劇が不毛の時代だと言われる。有名な俳優は出たが、肝心の演劇作品と言う点では、演劇史に残るような作品は少ない。本演習で取り上げるのは Oliver Goldsmith の <i>She Stoops to Conquer</i> (1773) という喜劇であり、この喜劇はいまだに英国の舞台で演じられている。 Wit というより <i>humour</i> と <i>nature</i> を主眼とするこの喜劇は我々日本人にも大いに受けると思われるが、劇作家の知名度が低いため、我が国で上演された例は皆無である。とにかく愉快的な喜劇であるので、18世紀という時代背景とユーモアに満ちたこの作品を毎回数頁程度精読しながらじっくりと味わいたい。 なお、受講生との相談により、教材の変更もあり得る。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業当日の予習は不可欠である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Act III 3. Act III 4. Act III 5. Act III 6. Act III 7. Act III 8. Act IV 9. Act IV 10. Act IV 11. Act IV 12. Act IV 13. Review <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] プリント配布</p> <p>[参考書 (ISBN)] 授業中指示する。</p>			

科目名	英文学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	19世紀イギリスの絵画論を読む		
担当者	野末 紀之		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

19世紀イギリスを代表する文学者にして思想家のラスキンの絵画論とそれに反応(反発)したペイターとホイッスラーの絵画論を精読することにより、当時の絵画について、また言語と視覚芸術の関係について考察を深めることが目標である。

[授業概要]

ラスキン、ペイター、ホイッスラーら、19世紀ヴィクトリア朝の代表的な文学者たちの絵画をめぐる論考を取上げ、それがどのようなものとして位置づけられ、また価値づけられていたのかを、現代的観点をふまえながら考察する。前期では、ラスキンの絵画論を取上げる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

授業で取上げる箇所を十分予習する必要がある。難解なので、翻訳があるものについては利用してほしい。

[授業計画]

1. イントロダクション
2. ラスキン『近代画家論』(1)
3. ラスキン『近代画家論』(2)
4. ラスキン『近代画家論』(3)
5. ラスキン『近代画家論』(4)
6. ラスキン『近代画家論』(5)
7. ラスキン『近代画家論』(6)
8. ラスキン『近代画家論』(7)
9. ラスキン『近代画家論』(8)
10. ラスキン『近代画家論』(9)
11. ラスキン『近代画家論』にかんする同時代批評(1)
12. ラスキン『近代画家論』にかんする同時代批評(2)
13. まとめと質疑応答

[成績評価方法]

授業参加度(60%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

なし(資料配付)

[参考書(ISBN)]

なし(授業中に指示)

科目名	英文学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	19世紀イギリスの絵画論を読む		
担当者	野末 紀之		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 19世紀イギリスを代表する文学者にして思想家のラスキンの絵画論と、それに反応(反発)したペイターとホイッスラーの絵画論を精読することにより、当時の絵画について、また言語と視覚芸術の関係について考察を深めることが目標である。			
[授業概要] ラスキン、ペイター、ホイッスラーら、19世紀ヴィクトリア朝の代表的な文学者たちの絵画をめぐる論考を取上げ、それがどのようなものとして位置づけられ、また価値づけられていたのかを、現代的観点をふまえながら考察する。後期は、ラスキンに対抗したペイターとホイッスラーの絵画論を取上げる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取上げる箇所を十分予習すること。翻訳があるものについては利用してほしい。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. ラスキンとペイター 3. ペイター「ジョルジョーネ派」(1) 4. ペイター「ジョルジョーネ派」(2) 5. ペイター「ジョルジョーネ派」(3) 6. ペイター「ポッティチェッリ論」(1) 7. ペイター「ポッティチェッリ論」(2) 8. ラスキンとホイッスラー 9. ホイッスラー「十時」(1) 10. ホイッスラー「十時」(2) 11. ホイッスラー「十時」(3) 12. ホイッスラーの絵画論にかんする批評 13. まとめと質疑応答			
[成績評価方法] 授業参加度(60%)、レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし(資料配付)			
[参考書(ISBN)] なし(授業中に指示)			

科目名	英文学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	シェイクスピアのローマ史劇		
担当者	西出 良郎		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 演劇はすべて舞台上で上演することを意図して書かれたものであるという前提に立って、戯曲の読み方を学び、シェイクスピアのローマ史劇の理解を深めることを主たる目標とする。 修士論文執筆に向けて、レポートの作成に習熟することも併せて目指したい。</p> <p>[授業概要] ローマの歴史家プルタルコス『英雄伝』を素材として、シェイクスピアは『ジュリアス・シーザー』、『アントニーとクレオパトラ』、『コリオレイナス』という3作の戯曲を残してる。個々の作品の源材となったプルタルコスと比較検討することで、劇作家の工夫を探る。 毎回数頁程度精読していく。ローマ共和政初期の軍人の没落を描く『コリオレイナス』、共和政を維持しようとするブルータスらのジュリアス・シーザー暗殺が、皮肉にも共和政の崩壊を招く様子を描く『ジュリアス・シーザー』、帝政に向かうローマの権力闘争を描く『アントニーとクレオパトラ』を取り上げ、近代初期イングランドの政治・文化がどのように反映されているかに注意をはらう。 なお、受講生との相談により教材を変更する場合もあり得る。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業でとり上げる部分の予習は毎回不可欠である。</p> <p>[授業計画] 1. Introduction 2. Julius Caesar 1 4. Julius Caesar 2 5. Julius Caesar 3 6. Julius Caesar 4 7. Julius Caesar 5 8. Julius Caesar 6 9. Julius Caesar 7 10. Antony and Cleopatra 1 11. Antony and Cleopatra 2 12. Antony and Cleopatra 3 13. Review</p> <p>[成績評価方法] 授業へのとり組(50%), レポート((50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中指示する。</p>			

科目名	英文学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	シェイクスピアのローマ史劇研究		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 演劇はすべて舞台上で上演することを意図して書かれたものであるという前提に立って、戯曲の読み方を学び、シェイクスピアのローマ史劇の理解を深めることを主たる目標とする。 修士論文執筆に向けて、レポートの作成に習熟することも併せて目指したい。			
[授業概要] ローマの歴史家プルタルコス『英雄伝』を素材として、シェイクスピアは『ジュリアス・シーザー』、『アントニーとクレオパトラ』、『コリオレイナス』という3作の戯曲を残してる。個々の作品の源材となったプルタルコスと比較検討することで、劇作家の工夫を探る。 毎回数頁程度精読していく。ローマ共和政初期の軍人の没落を描く『コリオレイナス』、共和政を維持しようとするブルータスらのジュリアス・シーザー暗殺が、皮肉にも共和政の崩壊を招く様子を描く『ジュリアス・シーザー』、帝政に向かうローマの権力闘争を描く『アントニーとクレオパトラ』を取り上げ、近代初期イングランドの政治・文化がどのように反映されているかに注意をはらう。 なお、受講生との相談により教材を変更する場合もあり得る。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる部分の予習は不可欠である。			
[授業計画] 1. Introduction 2. Antony and Cleopatra 4 3. Antony and Cleopatra 5 4. Antony and Cleopatra 6 5. Antony and Cleopatra 7 6. Coriolanus 1 7. Coriolanus 2 8. Coriolanus 3 9. Coriolanus 4 10. Coriolanus 5 11. Coriolanus 6 12. Coriolanus 7 13. Review			
[成績評価方法] 授業への取り組み(50%), レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント配布			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する。			

科目名	英文学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	19世紀前半のイギリスのエッセイを読む		
担当者	野末 紀之		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 19世紀初頭に文学ジャンルとして意識化される「エッセイ」の特徴を認識できるようになることが目標である。			
[授業概要] イギリスでは、ラム、ハズリット、ド・クインシーら19世紀前半の文学者により、散文による「エッセイ」というジャンルが発展する。現代日本では、それは日常生活を題材とする気ままな文章という程度のものだが、彼らのエッセイは、古典文学の素養を必要としたり、現実と幻想を混淆させたりしたもので、芸術作品の特質をもつ。前期ではラムの代表作を取上げ、時間をかけて精読しながら、おのおのの特徴を考察する。同時代および後の時代の批評もあわせて読む。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取上げる箇所を十分に予習し、疑問点は整理しておく。翻訳があるので利用してほしい。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. ラム『エリア随筆』より(1) 3. ラム『エリア随筆』より(2) 4. ラム『エリア随筆』より(3) 5. ラム『エリア随筆』より(4) 6. ラム『エリア随筆』より(5) 7. ラム『エリア随筆』より(6) 8. ラム『エリア随筆』より(7) 9. 『エリア随筆』にかんする同時代評価(1) 10. 『エリア随筆』にかんする同時代評価(2) 11. 『エリア随筆』にかんする後年の評価(1) 12. 『エリア随筆』にかんする後年の評価(2) 13. まとめと質疑応答			
[成績評価方法] 授業への参加度(60%)、レポート(40%)による			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし(資料配付)			
[参考書(ISBN)] なし(授業中に指示)			

科目名	英文学特論Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	19世紀前半のイギリスのエッセイを読む		
担当者	野末 紀之		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 前期に引き続き、19世紀前半の代表的なエッセイを読み、このジャンルが対象や形式、視点、文体などにおいてどのように展開していったかについて考察を深めることが目標である。			
[授業概要] イギリスでは、ラム、ハズリット、ド・クインシーら19世紀前半の文学者により、散文による「エッセイ」というジャンルが発展する。現代日本では、それは日常生活を題材とする気ままな文章という程度のものだが、彼らのエッセイは、古典文学の素養を必要としたり、現実と幻想を混淆させたりしたもので、芸術作品の特質をもつ。後期ではハズリットとド・クインシーの代表作を取上げ、時間をかけて精読しながら、おのおのの特徴を考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取上げる箇所を十分予習する必要がある。翻訳があるので利用してほしい。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. ハズリット『座談(テーブル・トーク)』より(1) 3. ハズリット『座談(テーブル・トーク)』より(2) 4. ハズリット『座談(テーブル・トーク)』より(3) 5. ハズリット『座談(テーブル・トーク)』より(4) 6. ハズリット『座談(テーブル・トーク)』より(5) 7. ド・クインシー「『マクベス』劇中の門口のノックについて」(1) 8. ド・クインシー「『マクベス』劇中の門口のノックについて」(2) 9. ド・クインシー「芸術の一分野として見た殺人」(1) 10. ド・クインシー「芸術の一分野として見た殺人」(2) 11. ド・クインシー「芸術の一分野として見た殺人」(3) 12. ハズリットとド・クインシーにたいする同時代批評 13. ハズリットとド・クインシーにたいする後年の批評			
[成績評価方法] 授業参加度(40%)、レポート(60%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	応用言語学演習(英語教育) a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	本田 隆裕		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 日本人学習者を対象とした英語教育学の文献であるTode (2008)の精読を通して、英語教育学の研究手法を学ぶ。文献が入手できない場合は別の文献に変更する可能性がある。</p> <p>[授業概要] テキストを精読した上で、問題点を議論していく。受講生は指定の箇所を精読し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むことが求められる。授業中に各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。 ・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。</p> <p>[授業計画] 1. Introduction 2. Exemplar-based Theories of Language and Learning (1): Usage-based models of language representation 3. Exemplar-based Theories of Language and Learning (2): Exemplar-based theories of learning mechanism 4. Exemplar-based Theories of Language and Learning (3): Exemplar-based approach to L1 acquisition 5. Frequency Effects in Classroom Second Language Learning (1): Exemplar-based L2 learning 6. Frequency Effects in Classroom Second Language Learning (2): Implicit learning and explicit learning 7. Frequency Effects in Classroom Second Language Learning (3): Processing instruction and output practice 8. The Learning of the Primary Verb Be (1): Introduction 9. The Learning of the Primary Verb Be (2): Problems in learning the English primary verb be 10. The Learning of the Primary Verb Be (3): Factors of difficulty 11. The Learning of the Primary Verb Be (4): Explicit instruction on the role of the copula be 12. The Learning of the Primary Verb Be (5): Conclusion and aims of the present study 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 研究発表を含めた授業参加(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] Effects of frequency in classroom second language learning: Quasi-experiment and stimulated-recall analysis 著者名:Tomoko Tode 出版社:Peter Lang (978-3-03911-602-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に指示する</p>			

科目名	応用言語学演習(英語教育) b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	本田 隆裕		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 日本人学習者を対象とした英語教育学の文献であるTode (2008)の精読を通して、英語教育学の研究手法を学ぶ。文献が入手できない場合は別の文献に変更する可能性がある。</p> <p>[授業概要] テキストを精読した上で、問題点を議論していく。受講生は指定の箇所を精読し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むことが求められる。授業中に各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。 ・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Review of Tode (2008) 2. Methodology for Tode's (2008) Study (1): Introduction 3. Methodology for Tode's (2008) Study (2): Procedure and materials 4. Methodology for Tode's (2008) Study (3): Pretest and instruction 5. Methodology for Tode's (2008) Study (4): Thought-process data collection 6. Methodology for Tode's (2008) Study (5): Scoring procedures 7. Analysis and Results (1): Introduction 8. Analysis and Results (2): Research Questions 9. Conclusion of Tode (2008) 10. Honda's (2016) Analysis (1): Introduction 11. Honda's (2016) Analysis (2): Research Questions 12. Honda's (2016) Analysis (3): Results and Discussion 13. まとめ <p>[成績評価方法] 研究発表を含めた授業参加(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] Effects of frequency in classroom second language learning: Quasi-experiment and stimulated-recall analysis 著者名:Tomoko Tode 出版社:Peter Lang (978-3-03911-602-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に指示する</p>			

科目名	応用言語学特論(英語教育) a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	本田 隆裕		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 理論言語学・応用言語学の研究手法を理解し、関連する文献を読み込む能力を養う。</p> <p>[授業概要] 本講座では、人間の母語獲得を説明する生成文法及び生成文法に基づいた第二言語習得研究の文献を読み、言語について論理的に分析できる能力を養うとともに、なぜ外国語の学習は難しいのかという問いに対して自分なりの考えを持てるようにします。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ことばと科学、ことばの獲得 3. 統語構造と普遍文法 4. 語彙範疇と機能範疇、X⁰バー理論 5. θ 役割、態、格 6. 数量詞繰り上げ、PF表示とLF表示 7. コントロール構文 8. 非対格仮説、述語内主語仮説 9. 主要部移動、wh移動 10. ミニマリスト・プログラム、ラベル付けアルゴリズム 11. 照応表現の解釈: 日本の中高生、大学生を対象にした研究 12. wh移動の制約: 第二言語習得の臨界期 13. 文主語の義務性: pro脱落パラメータに基づく研究 <p>[成績評価方法] 授業中の課題(30%) + レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをします。 レポートは講評を付けて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] ベーシック生成文法 著者名: 岸本秀樹 出版社: ひつじ書房 (978-4894764262)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に指示する</p>			

科目名	応用言語学特論(英語教育) b	後期	2 単位
サブタイトル	英語教育学		
担当者	本田 隆裕		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 語彙概念理論の理解と語彙概念の英語教育への応用について分析できるようになる。</p> <p>[授業概要] 本講座では、語彙概念意味論の研究内容を理解し、その理論に基づき英語学習者に見られる誤用について分析します。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 非対格性(1) 3. 非対格性(2) 4. 語彙概念構造(1) 5. 語彙概念構造(2) 6. 完了形容詞(1) 7. 完了形容詞(2) 8. 自動詞と他動詞(1) 9. 自動詞と他動詞(2) 10. 結果構文(1) 11. 結果構文(2) 12. 概念構造と視点 13. 概念構造を踏まえた学習者の誤用分析 <p>[成績評価方法] 授業中の課題(30%) + レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをします。 レポートは講評を付けて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] 『動詞意味論一言語と認知の接点一』 著者名: 影山太郎 出版社: くろしお出版 (978-4-87424-130-1 C3081)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 授業中に指示する</p>			

科目名	米文学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	アメリカ演劇研究		
担当者	坂元 敦子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

アメリカ人劇作家による戯曲を英語で読み、アメリカ演劇に対する理解を深める。

[授業概要]

この授業ではアメリカを代表する劇作家であるTennessee Williamsの作品をとりあげ、丹念に読みながら作品にみられるアメリカ社会の特徴について考察する。作品の映画版と比較をおこなったり、原作に関する批評の検討もおこなうなど、さまざまな角度からアメリカ演劇について考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

授業で読む範囲を予習すること。

[授業計画]

1. イントロダクション
2. アメリカ演劇の特徴
3. テネシー・ウィリアムズと南部作家
- 4.-12. ウィリアムズの作品を読み、作品にみられるアメリカの特徴について考察する。
13. まとめ

[成績評価方法]

授業への取組(60%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書 (ISBN)]

A Streetcar Named Desire 著者名: Tennessee Williams 出版社: New Directions (978-0811216029)

[参考書 (ISBN)]

Tennessee Williams' A Streetcar Named Desire 著者名: Harold Bloom 出版社: Chelsea House (978-1555460532)

科目名	米文学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	アメリカ演劇研究		
担当者	坂元 敦子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

アメリカ人劇作家による戯曲を英語で読み、アメリカ演劇に対する理解を深める。

[授業概要]

この授業ではアメリカを代表する劇作家であるTennessee Williamsの作品をとりあげ、丹念に読みながら作品にみられるアメリカ社会の特徴について考察する。作品の映画版と比較をおこなったり、原作に関する批評の検討もおこなうなど、さまざまな角度からアメリカ演劇について考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

授業で読む範囲を予習すること。

[授業計画]

1. イントロダクション
2. アメリカ演劇の特徴
3. テネシー・ウィリアムズと南部作家
- 4.-12. ウィリアムズの作品を読み、作品にみられるアメリカの特徴について考察する。
13. まとめ

[成績評価方法]

授業への取組(60%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書 (ISBN)]

A Streetcar Named Desire 著者名: Tennessee Williams 出版社: New Directions (978-0811216029)

[参考書 (ISBN)]

Tennessee Williams' A Streetcar Named Desire 著者名: Harold Bloom 出版社: Chelsea House (978-1555460532)

科目名	米文学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	字幕翻訳演習		
担当者	木村 恵子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

字幕という字数の限られた翻訳を理解する。

[授業概要]

アメリカを舞台とした映画を題材に、そのスクリプトを読み、字幕翻訳の仕方を学ぶ。ナレーション、会話特有の表現にも留意し、作品の文化的歴史的背景も考慮しながら翻訳を試みる。また自分の翻訳と実際の字幕との違いについても考えてみる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

スクリプトを事前に配りますので読んでおいてください。

[授業計画]

1. オリエンテーション(授業計画、成績評価方法の説明等)。スクリプト配布し、概要を説明する。
2. 映画を見る。あらすじをたどる。
3. 映画の歴史的・文化的背景を見る。登場人物に焦点を当てる。
4. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。①
5. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。②
6. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。③
7. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。④
8. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。⑤
9. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。⑥
10. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。⑦
11. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。⑧
12. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。⑨
13. 全体のまとめ

[成績評価方法]

授業への取り組み(60%)、レポート(40%)で評価。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

なし。著者名:x 出版社:x (x)

[参考書(ISBN)]

なし。著者名:x 出版社:x (x)

科目名	米文学演習 II b	後期	2 単位
サブタイトル	字幕翻訳演習		
担当者	木村 恵子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 字幕という字数の限られた翻訳を理解する。</p> <p>[授業概要] アメリカを舞台とした映画を題材に、そのスクリプトを読み、字幕翻訳の仕方を学ぶ。ナレーション、会話特有の表現にも留意し、作品の文化的歴史的背景も考慮しながら翻訳を試みる。また自分の翻訳と実際の字幕との違いについても考えてみる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] スクリプトを事前に配りますので読んでおいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業計画、成績評価方法の説明等)。スクリプト配布し、概要を説明する。 2. 映画を見る。あらすじをたどる。 3. 映画の歴史的・文化的背景を見る。登場人物に焦点を当てる。 4-12. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。 13. 全体のまとめ <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)、レポート(40%)で評価。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)</p>			

科目名	米文学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	Eudora Weltyの作品から見るアメリカ南部		
担当者	坂元 敦子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] アメリカ南部作家による作品を読み、作品を通じてアメリカ南部の社会・文化の理解を深める。</p> <p>[授業概要] ユードラ・ウェルティはアメリカ南部ミシシッピ出身の作家であり、南部の人々やそのコミュニティを描いた短編の名手として知られている。彼女の作品は一見、人々のなげない日常を描いているようでありながら、そのユーモアあふれる描写の背後には南部の抱えるさまざまな問題が隠れている。授業ではOne Time, One Place, Why I Live at the P.O., A Worn Pathなどを丹念に読み、南部の地理や情景をたどりながら、作品にみられるアメリカ南部の特徴・歴史・文化について考える。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. アメリカ南部について 3. ユードラ・ウェルティと南部作家 4. ~12. ウェルティの作品を読み、アメリカ南部について考察する。 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] The Collected Stories of Eudora Welty 著者名: Eudora Welty 出版社: Mariner Books (978-0156189217)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 『アメリカ南部小説を旅する —ユードラ・ウェルティを訪ねて』 著者名: 中村紘一 出版社: 京都大学学術出版会 (978-4876988310)</p>			

科目名	米文学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	Eudora Weltyの作品から見るアメリカ南部		
担当者	坂元 敦子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] アメリカ南部作家による作品を読み、作品を通じてアメリカ南部の社会・文化の理解を深める。</p> <p>[授業概要] ユードラ・ウェルティはアメリカ南部ミシシッピ出身の作家であり、南部の人々やそのコミュニティを描いた短編の名手として知られている。彼女の作品は一見、人々のなげない日常を描いているようでありながら、そのユーモアあふれる描写の背後には南部の抱えるさまざまな問題が隠れている。授業ではOne Time, One Place, Why I Live at the P.O., A Worn Pathなどを丹念に読み、南部の地理や情景をたどりながら、作品にみられるアメリカ南部の特徴・歴史・文化について考える。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. アメリカ南部について 3. ユードラ・ウェルティと南部作家 4. ~12. ウェルティの作品を読み、アメリカ南部について考察する。 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] The Collected Stories of Eudora Welty 著者名: Eudora Welty 出版社: Mariner Books (978-0156189217)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 『アメリカ南部小説を旅する —ユードラ・ウェルティを訪ねて』 著者名: 中村紘一 出版社: 京都大学学術出版会 (978-4876988310)</p>			

科目名	米文学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	ゴシック小説		
担当者	木村 恵子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] アメリカ文学をゴシックの視点から見る。</p> <p>[授業概要] ゴシック小説とは、古城、修道院、地下窟、墓地、廃墟といったいわゆるゴシック風の環境を背景とし超自然的な怪奇を扱い、殺人が起きたり、亡霊の出没する、人々に恐怖や不安を与える小説を初期の段階ではさしている。その代表的な作者としてAnn Radcliffe, Mary Shelley, Bram Stoker, Matthew Lewisが挙げられる。やがてイギリスではそうしたタイプのゴシック小説は廃れ、その流れはドイツやアメリカに移っていった。そしてイギリスのゴシック小説は、Charles Brockden Brownを介してアメリカへと広がっていく。Edgar Allan Poe, Nathaniel Hawthorne, Henry James, William Faulkner, Flannery O'Connor, Shirley Jackson, Richard Wright, Toni Morrison, Thomas Pynchon, Steven King, Anne Riceなど、広がりを見せ、アメリカ文学の中心的存在となっていくのである。そして、演劇や映画へも発展もみせている。いうなればアメリカ文学の主要な作家の多くがゴシック小説とかかわりをもっているのである。横断的に見ることにより、そのゴシック性の受け継がれを浮き彫りにしたい。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 次週にテキストを読む場合は事前にその範囲を読んできてください。</p> <p>[授業計画] 1 ゴシック小説の誕生について 2 イギリスにおけるゴシック小説(1) 3 イギリスにおけるゴシック小説(2) 4 イギリスにおけるゴシック小説(3) 5 アメリカンゴシックが生まれた背景 6 インディアン の存在 7 ピューリタニズムの影 8 魔女狩り 9 Cotton Matherについて 10 フロンティアの恐怖 11 アメリカゴシック小説の誕生—Charles Brockden Brown 12 Edgar Allan Poe (1) 13 Edgar Allan Poe (2)</p> <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] <i>The Expanding World of the Gothic</i> 著者名:Keiko Kimura (ed) 出版社:朝日出版社 (9784255011615C3097)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:x 出版社:x (x)</p>			

科目名	米文学特論Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	ゴシック小説		
担当者	木村 恵子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アメリカ文学をゴシックの視点から見る。			
[授業概要] ゴシック小説とは、古城、修道院、地下窟、墓地、廃墟といったいわゆるゴシック風の環境を背景とし超自然的な怪奇を扱い、殺人が起きたり、亡霊の出没する、人々に恐怖や不安を与える小説を初期の段階ではさしている。その代表的な作者としてAnn Radcliffe, Mary Shelley, Bram Stoker, Matthew Lewisが挙げられる。やがてイギリスではそうしたタイプのゴシック小説は廃れ、その流れはドイツやアメリカに移っていった。 そしてイギリスのゴシック小説は、Charles Brockden Brownを介してアメリカへと広がっていく。Edgar Allan Poe, Nathaniel Hawthorne, Henry James, William Faulkner, Flannery O'Connor, Shirley Jackson, Richard Wright, Toni Morrison, Thomas Pynchon, Steven King, Anne Riceなど、広がりを見せ、アメリカ文学の中心的存在となっていくのである。そして、演劇や映画へも発展もみせている。いうなればアメリカ文学の主要な作家の多くがゴシック小説とかかわりをもっているのである。横断的に見ることにより、そのゴシック性の受け継がれを浮き彫りにしたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 次週取り上げるテキストの範囲をあらかじめ読んでおいてください。			
[授業計画]			
1 イントロダクション。授業計画、成績評価方法等の説明。前期の復習。 2 Nathaniel Hawthorne (1) 3 Nathaniel Hawthorne (2) 4 Henry James (1) 5 Henry James (2) 6 Southern Gothicについて(1) 7 Southern Gothicについて(2) 8 Southern Gothicについて(3) 9 Female Gothicについて(1) 10 Female Gothicについて(2) 11 Female Gothicについて(3) 12 Modern Gothicについて(1) 13 Modern Gothicについて(2)			
[成績評価方法] 授業への取り組み(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] <i>The Expanding World of the Gothic</i> 著者名:Keiko Kimura (ed) 出版社:朝日出版社 (9784255011615C3097)			
[参考書(ISBN)] 授業時に提示する。 著者名:x 出版社:x (x)			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	木村 恵子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x)</p>			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	坂元 敦子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習・研究・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業で指示します。()</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業で指示します。</p>			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	西出 良郎		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	本田 隆裕		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
学位論文の作成

[授業概要]
学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。

[成績評価方法]
総合評価による。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
授業中に指示する。

[参考書(ISBN)]
授業中に指示する。

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	吉本 真由美		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

- ・学位論文にふさわしい研究課題を設定し、十分な調査や研究を経て、その内容を論文に結実させる。
- ・説得的で論理的な文章と構成を備えた論文を作成する。

[授業概要]

学位論文を作成するための研究指導を行う。問題の発見手法、資料収集方法、英語論文の書き方等を指導する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]

受講生の学位論文作成進捗状況に合わせて調整する。

[成績評価方法]

学位論文の進捗(50%)、発表(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

なし

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	野末 紀之		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	木村 恵子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)</p>			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	坂元 敦子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習・研究・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業で指示します。()</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業で指示します。</p>			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	西出 良郎		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	本田 隆裕		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
学位論文の作成

[授業概要]
学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。

[成績評価方法]
総合評価による。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	吉本 真由美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文にふさわしい研究課題を設定し、十分な調査や研究を経て、その内容を論文に結実させる。 ・説得的で論理的な文章と構成を備えた論文を作成する。 <p>[授業概要]</p> <p>学位論文を作成するための研究指導を行う。問題の発見手法、資料収集方法、英語論文の書き方等を指導する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>受講生の学位論文作成進捗状況に合わせて調整する。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>学位論文の進捗(50%)、発表(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし</p>			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	野末 紀之		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

日本史学専攻

科目名	西洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題について理解し、自身の視点から考察する。</p> <p>[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文、同時代史料を輪読する。その後受講生は扱ったテーマからひとつを選択して、自身の問題関心や視点からの研究発表を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。事前に配布した英文史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての解説 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 研究発表(1) 12. 研究発表(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 英文史料読解の評価(50%)、発表1回(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	西洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題についての理解をさらに深め、自身の問題関心を世界史的な視野に広げる。</p> <p>[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文を、同時代史料もあわせて輪読する。その後、それぞれが選択したテーマについて、受講生は自身の視点から研究発表を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。事前に配布した英文史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての解説 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 研究発表(1) 12. 研究発表(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 英文史料読解の評価(50%)、発表1回(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	西洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	イギリス帝国史		
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 帝国という視座からのイギリス近代史を多角的に考察・理解する。また英文による教科書および同時代史料を読解する能力を身につける。授業で得た知見をふまえて、日本史学専攻の学生としての視点から日本とイギリス帝国に関係する研究発表を行う。			
[授業概要] イギリス帝国の歴史とその諸問題について、近年の新しい研究動向をふまえつつ多角的に考察する。とりわけ、イギリスのアジア(インド、中国、日本)認識とその変容、および帝国植民地におけるジェンダーとセクシュアリティについて、同時代史料を参照しながら理解を深め、日本史領域における自身の研究課題を新たな方向から検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度。講読形式の授業ではないがテキストにそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料や指定するWebサイトについても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ授業に出席すること。			
[授業計画] 1. はじめに イギリス帝国史研究の動向 2. 連合王国の成立 3. 大西洋貿易 4. 「新世界」への入植 5. 北米植民地の独立 6. オセアニア 7. インド 8. 支配と被支配 9. ジェンダーとセクシュアリティ(1) 10. ジェンダーとセクシュアリティ(2) 11. 帝国の拡張 12. 脱植民地化 13. まとめ イギリス帝国史とグローバル・ヒストリー			
[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、発表(40%)、発表後のレポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] イギリス帝国史: 移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから 著者名: フィリップ・レヴァイン、並河葉子他訳 出版社: 昭和堂 (4812219248)			

科目名	西洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	近代イギリスとマスキュリニティ		
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近代イギリスのマスキュリニティとその変容について、同時代の政治・社会・諸制度との関係をふまえて理解する。また、英文による教科書および同時代史料を読解できる能力を身につける。授業で得た知見をふまえて、日本史学専攻の学生としての視点から日本とイギリス帝国に関係する研究発表を行う。</p> <p>[授業概要] 近代イギリス・ジェンダー史の研究動向を概観し、とりわけ近年注目されているマスキュリニティおよびマンリネス(男性性)について、同時代の政治・社会・諸制度との関わりに注目して考察し、日本史領域における自身の関心や研究課題を新たな方向から検討する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。講読形式の授業ではないが教科書にそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料についても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ出席すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. マスキュリニティ研究の動向 3. マスキュリニティの歴史 1750-1850(1) 4. マスキュリニティの歴史 1750-1850(2) 5. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(1) 6. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(2) 7. フェミニズムとマスキュリニティ 8. 家族史とマスキュリニティ(1) 9. 家族史とマスキュリニティ(2) 10. 帝国とマスキュリニティ(1) 12. 帝国とマスキュリニティ(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、発表(40%)、発表後のレポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p>			

科目名	東洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	東洋史学史		
担当者	鈴木 宏節		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

東洋史に関する基礎知識を習得する。研究テーマに対するアプローチ方法の変遷を学び、東洋史に対する問題意識を高める。

[授業概要]

東洋史学の研究史を解説する。特に近代西欧の歴史学、東洋学について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

配付資料は必ず予習して不明箇所を把握しておくこと。また、東洋史全般に関わる概説書や一般書、論文を紹介するので、必要なものは授業に前後して目を通す。

[授業計画]

1. 東洋史学と世界史
2. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(1)
3. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(2)
4. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(3)
5. 西欧の近代歴史学(1)歴史学の歩み
6. 西欧の近代歴史学(2)アジア認識の変遷
7. 西欧の東洋学(1)東洋学の誕生
8. 西欧の東洋学(5)東洋学の展開
9. 第二次世界大戦後の東洋史学と世界史
10. 文献の講読と考察(1)東アジアの諸問題
11. 文献の講読と考察(2)西アジアの諸問題
12. 文献の講読と考察(3)南アジアの諸問題
13. 文献の講読と考察(4)北アジアの諸問題

[成績評価方法]

授業への取り組み(60%) + レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業の初回に指示する。

[参考書(ISBN)]

適宜紹介する。

科目名	東洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	東洋史学史		
担当者	鈴木 宏節		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

東洋史に関する基礎知識を習得する。研究テーマに対するアプローチ方法の変遷を学び、東洋史に対する問題意識を高める。

[授業概要]

東洋史学の研究史を解説する。特に漢文史料、漢籍の編纂について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

配付資料は必ず予習して不明箇所を把握しておくこと。また、東洋史全般に関わる概説書や一般書、論文を紹介するので、必要なものは授業に前後して目を通す。

[授業計画]

1. 東洋史学と世界史
2. 正史の成り立ち(1)
3. 正史の成り立ち(2)
4. 正史の成り立ち(3)
5. その他の歴史書(1)
6. その他の歴史書(2)
7. 漢籍の形態論(1)
8. 漢籍の形態論(2)
9. 出土史料の展開
10. 文献の講読と考察(1)
11. 文献の講読と考察(2)
12. 文献の講読と考察(3)
13. 文献の講読と考察(4)

[成績評価方法]

授業への取り組み(60%) + レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

授業の初回に指示する。

[参考書(ISBN)]

適宜紹介する。

科目名	東洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	前近代中央ユーラシア・東アジア世界の歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 東洋史に関する文献を精読したうえで、原典を検証するという史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。</p> <p>[授業概要] 東洋前近代史が直面している問題とは何か。石見清裕『唐代の国際関係』(世界史リブレット97、山川出版社、2009年)をテキストに研究動向を把握する。また、原典史料を講読する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 基本文献について説明するので、それらを使い可能な限り予習をしてくる。必要に応じてレジュメを作成し口頭報告してもらうこともある。また、関連文献を紹介するので、検索し研究動向の把握につとめる。</p> <p>[授業計画] 1. 中国史の基本構造(1)ユーラシアとアジアの関係 2. 中国史の基本構造(2)東アジアと北アジアの関係 3. 文献講読(1)唐という国を考えるにあたって・唐王朝の成立 4. 文献講読(2)隋唐皇室の系譜・六鎮の乱と北族の南下 5. 文献講読(3)隋末の乱と唐の建国・内陸アジアの遊牧民と隊商民 6. 文献講読(4)長安と外交儀礼・唐の国際秩序理念 7. 文献講読(5)唐代国際関係の変遷・朝貢における財貨交換の構造・海商の時代へ 8. 史料講読(1)編纂史料 9. 史料講読(2)編纂史料 10. 史料講読(3)編纂史料 11. 史料講読(4)出土墓誌 12. 史料講読(5)出土墓誌 13. 史料講読(6)出土墓誌</p> <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(70%) + レポート(30%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 『唐代の国際関係』(世界史リブレット97) 著者名:石見清裕 出版社:山川出版社 (978-4-634-34935-3)</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p>			

科目名	東洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	東アジアと西アジアの歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

東洋史に関する文献や論文を精読し、史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。

[授業概要]

近世のアジアが直面した問題とは何だったのだろうか。林佳世子『オスマン帝国の時代』と岸本美緒『東アジアの「近世」』（世界史リブレット19、13、山川出版社、1997年、1998年）をテキストに西アジアと東アジアの近世を理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

現代のアジア情勢を意識しつつ、文献を精読した上で授業に出席すること。必要に応じ、レジュメを作成して解説を求めることがある。

[授業計画]

1. 文献講読(1)オスマン帝国を生んだ世界
2. 文献講読(2)オスマン帝国史の展開
3. 文献講読(3)軍事制度と徴税システム
4. 文献講読(4)中央官僚制度
5. 文献講読(5)オスマン帝国下の社会
6. 文献講読(6)分権化の時代へ
7. 文献講読(1)近世における大清帝国の意義
8. 文献講読(2)貨幣への欲望－銀
9. 文献講読(3)南と北の花形商品－生糸と人参
10. 文献講読(4)戦争と技術交流－火器
11. 文献講読(5)新しい作物－煙草と甘薯
12. 文献講読(6)東アジアにおける西洋の衝撃
13. まとめ

[成績評価方法]

授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

『オスマン帝国の時代』(世界史リブレット19) 著者名:林佳世子 出版社:山川出版社(4634341905)

『東アジアの「近世」』(世界史リブレット13) 著者名:岸本美緒 出版社:山川出版社(4634341301)

[参考書(ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

科目名	日本史学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこして授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読1 3. 講読2 4. 講読3 5. 講読4 6. 講読5 7. 講読6 8. 講読7 9. 講読8 10. 講読9 11. 講読10 12. 講読11 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p>			

科目名	日本史学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 担当部分以外についても、事前に自分なりの訓読・解釈をほどこして授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読(1) 3. 講読(2) 4. 講読(3) 5. 講読(4) 6. 講読(5) 7. 講読(6) 8. 講読(7) 9. 講読(8) 10. 講読(9) 11. 講読(10) 12. 講読(11) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本史学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	中世史料の講読		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 中世の漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 受講生の関心を考慮して選んだ中世の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこした上で、授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 史料講読(1) 3. 史料講読(2) 4. 史料講読(3) 5. 史料講読(4) 6. 史料講読(5) 7. 史料講読(6) 8. 史料講読(7) 9. 史料講読(8) 10. 史料講読(9) 11. 史料講読(10) 12. 史料講読(11) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] テキストを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中随時指示する。</p>			

科目名	日本史学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	近世古文書の解読と整理		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の4点を到達目標とする。①やや難度の高い近世古文書を解読することができる、②最新の史料学をふまえ、未整理の近世古文書群を整理することができる、③近世・近代古文書の現地調査ができる、④歴史学研究における史料の位置づけについて理解できる。			
[授業概要] 前半は近世古文書の写真版を毎回読む。後半は、最新の史料学をふまえ、本学所蔵の近世古文書の整理を行う。その作業を通して、高度の近世古文書解読能力と近世古文書整理能力を養う。また、古文書現地調査(時期は未定)を通して、近世・近代古文書の現地調査能力を養う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前半においては、毎回十分な時間をかけてテキスト解読の予習を行うこと。後半の毎回の古文書整理においては、当然読むことのできないくずし字に遭遇するが、その場合、当該古文書の写真を撮影し、次回の演習までに読めるようにしておくこと。			
[授業計画] 1. 授業の進め方 2. 近世古文書の読解1 3. 近世古文書の読解2 4. 近世古文書の読解3 5. 近世古文書の読解4 6. 近世古文書の読解5 7. 近世古文書の読解6 8. 未整理近世古文書の整理1 9. 未整理近世古文書の整理2 10. 未整理近世古文書の整理3 11. 未整理近世古文書の整理4 12. 未整理近世古文書の整理5 13. 未整理近世古文書の整理6			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 増訂近世古文書解読字典 著者名:林英夫・若尾俊平他 出版社:柏書房 (ISBN4-7601-0003-2)			

科目名	日本史学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	中世史料の講読		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 中世の漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 受講生の関心を考慮して選んだ中世の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこした上で、授業に臨む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 史料講読(1) 3. 史料講読(2) 4. 史料講読(3) 5. 史料講読(4) 6. 史料講読(5) 7. 史料講読(6) 8. 史料講読(7) 9. 史料講読(8) 10. 史料講読(9) 11. 史料講読(10) 12. 史料講読(11) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] テキストを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中随時指示する。</p>			

科目名	日本史学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	近世史料の読解		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の2点を到達目標とする。①基本的な近世史料を正確かつ厳密に読解する能力を身につける、②近世史料から、近世の国家・社会の特質を把握する能力を身につける。			
[授業概要] 江戸幕府が出した法令を、法令発布者の意図および当時の社会状況に留意しつつ厳密に読んでいく。授業は、受講生による発表という形式で行う。報告担当者は、自身が割り当てられた法令について、①読み下し文、②他の文献に収録された同一法令との文言の異同、③語句の意味、④現代語訳、⑤法令発布の背景と結果、を記したレジュメを用意し、①～⑤の順に報告を行う。授業では、①～⑤の各段階ごとに、授業参加者全員で議論する。報告担当者以外の受講生も、事前に①③④について準備をしておき、授業に臨む。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 報告者は事前にレジュメを作成する。他の受講生も、取り上げる予定の法令に関して、上記「授業概要」に記した①③④については必ず事前に準備をしておかねばならない。			
[授業計画] 1. 授業の進め方 2. 江戸幕府法令の読解1 3. 江戸幕府法令の読解2 4. 江戸幕府法令の読解3 5. 江戸幕府法令の読解4 6. 江戸幕府法令の読解5 7. 江戸幕府法令の読解6 8.江戸幕府法令の読解7 9.江戸幕府法令の読解8 10. 江戸幕府法令の読解9 11. 江戸幕府法令の読解10 12. 江戸幕府法令の読解11 13. 江戸幕府法令の読解12			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 授業中に適宜指示する。			

科目名	日本史学演習Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝した上で、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。日本近現代史に関する学術論文の作成にあたっては、既存の研究を正確に整理するとともに、それを批判的に捉え、自分のオリジナルな説を提唱することが求められるだけに、そうした議論の立て方を重点的に指導していく。</p> <p>[授業概要] 研究書や専門論文の輪読が中心となる。発表者は毎回レジュメを用意し、論点や疑問点を整理する。それに沿って他の参加者と質疑応答を重ね、日本近現代史に関する論点を深めてゆく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] まずは日本近現代史に深い関心を持つことが必要である。次いで、日本近現代史に関する論文・専門書を効率よく検索する方法を身につけ、積極的に図書館等でコピーを入手する姿勢が求められる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題関心の披瀝 2. 日本近現代史研究の動向(講義) 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 専門書・論文の輪読(6) 10. 専門書・論文の輪読(7) 11. 専門書・論文の輪読(8) 12. 専門書・論文の輪読(9) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 受講状況と、発表内容・質疑応答の状況等を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本史学演習IVb	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史をめぐる最新の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝してもらい、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。あわせて、日本近現代史に関する学術論文の作成に向けた方向づけをおこなう。			
[授業概要] 当初は、日本近現代史に関する研究書や専門論文の輪読を中心とする。発表者は毎回レジユメを用意して論点や疑問点を整理し、その後の質疑応答にのぞむ。後半は、各自の課題意識に沿った研究発表を中心とし、演習形式での授業を継続する。その際には、作成中の論文の内容に関する発表も織り込むことにする。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史に関する高度に学術的な研究の把握につとめるので、問題関心を豊富に有していることが前提となる。			
[授業計画] 1. 受講者の問題関心の披瀝 2. 今後の研究指針の見定め 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 各自の研究発表(1) 10. 各自の研究発表(2) 11. 各自の研究発表(3) 12. 各自の研究発表(4) 13. まとめの質疑応答			
[成績評価方法] 受講状況と発表内容を総合して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学演習 Va	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学論文の手続きを習得し、自身の研究テーマを深める。また、他者の発表から気づきを得、一方では他者の研究をより高いステージに導く「議論の場」を作り出すことに体を慣らす。			
[授業概要] 自らのテーマについて、研究計画を設計し、論文のプロットを策定する。演習Vaは基盤づくりに主眼を置き、適切な目的の設定および資料・方法の選択までをめざしたい。 前半はまず取り扱う時代の全体像を把握し、自身の研究の位置づけを明確にするところから始める。次いで、先行研究を整理し、現在の到達点を把握する。これらについて発表し、討論を通じて自身の課題を研ぎ澄ませつつ、積極的に資料調査に向いてもらおうと思う。 後半はその資料調査の成果を、自らの仮説や着眼点とともに報告する。それらをふまえ、あらためて研究の目的・方法を策定し、それに即して研究史をまとめる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 発表者はレジメを作成すること。自身の取り扱うテーマの資料を調査し、実測図や調書を作成すること。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 受講者のテーマに関する発表 3. 時代像の把握(1) 4. 時代像の把握(2) 5. 遺跡／博物館の見学 6. 遺跡／博物館の見学 7. 先行学説の検討(1) 8. 先行学説の検討(2) 9. 資料調査報告(1) 10. 研究の到達点と課題の整理 11. 資料調査報告(2) 12. 先行論文の検討(3) 13. 研究目的・方法の策定			
[成績評価方法] 口頭発表の内容(40%)、討論への積極性(30%)、レポートの内容(30%)で評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学演習 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学論文の手続きを習得し、自身の研究テーマを深める。また、他者の発表から気づきを得、一方では他者の研究をより高いステージに導く「議論の場」を作り出すことに体を慣らす。			
[授業概要] それぞれのテーマの深化・前進を目標とする。この演習Vbを、演習Vaで作られた骨組みを肉付けする場と位置づけ、討論しながら「資料の分析」と「結果の読み解き」を進める。また、「考古学的事実に立脚した歴史叙述」についても討論を重ね、説得力をそなえた研究になるようサポートしたい。 初回は、資料の集成結果を、夏の資料調査の成果とともに報告する。次いで、資料分析という観点から参考になる論文各2篇ずつを報告し、その長短所を玩味したうえで自身の分析を進めていく。 後半では、前半で得た事実をまずは文章化し、既往学説との共通点・相違点を整理する。あわせて、演習Vaの冒頭で発表した時代像を再報告し、自らの作業がどの部分を切り拓いたかなど、成果を位置づけてもらいたい。それから諸作業の後、事実立脚した考察を冷静に進め、結論を導く。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 発表者はレジュメを作成すること。自身の取り扱うテーマの資料を調査し、実測図や調書を作成すること。			
[授業計画] 1. 資料の状況および夏の資料調査の報告 2. 参考論文の検討(1) 3. 参考論文の検討(2) 4. 資料の分析(1) 5. 論文の書き方(齋藤) 6. 資料の分析(2) 7. 資料の分析(3) 8. 事実の整理と既往学説の再整理 9. 時代像の整理(再報告) 10. 考察(1) 11. 考察(2) 12. 説得力アップの一手間(1) 13. 説得力アップの一手間(2)			
[成績評価方法] 口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年の日本史学界においてとくに大きく進展している、前近代の国際交流史研究の現状および問題点・課題などを理解する。</p> <p>[授業概要] 前近代の国際交流史に関する重要な論著を、輪番で報告を担当しながら読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 研究史の概要(1) 3. 研究史の概要(2) 4. 研究史の概要(3) 5. 研究史の概要(4) 6. 論著購読(1) 7. 論著購読(2) 8. 論著購読(3) 9. 論著購読(4) 10. 論著購読(5) 11. 論著購読(6) 12. 論著購読(7) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 出版社:— (—)</p>			

科目名	日本史学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年日本史学界においても大きく進展している「海域史」研究の現状および問題点・課題などを理解する。</p> <p>[授業概要] 近年の「海域史」研究における諸成果について講義し、あわせて今後の課題なども提示する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布するレジュメや紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海域史研究の諸成果(1) 3. 海域史研究の諸成果(2) 4. 海域史研究の諸成果(3) 5. 海域史研究の諸成果(4) 6. 海域史研究の諸成果(5) 7. 海域史研究の諸成果(6) 8. 海域史研究の諸成果(7) 9. 海域史研究の諸成果(8) 10. 海域史研究の諸成果(9) 11. 海域史研究の諸成果(10) 12. 海域史研究の諸成果(11) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 受講態度20%、質疑応答80%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜レジュメなどを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本史学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	日本中世史・海域アジア史研究の現状と課題		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本中世史や海域アジア史研究の現状と課題を理解する。</p> <p>[授業概要] 日本中世史や海域アジア史に関する重要な論著を読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中世対外関係史の研究史(1) 3. 中世対外関係史の研究史(2) 4. 受講生の関心のある分野の研究史(1) 5. 受講生の関心のある分野の研究史(2) 6. 論著講読(1) 7. 論著講読(2) 8. 論著講読(3) 9. 論著講読(4) 10. 論著講読(5) 11. 論著講読(6) 12. 論著講読(7) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] テキストを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に随時指示する。</p>			

科目名	日本史学特論Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	日本中世史・海域アジア史研究の現状と課題		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本中世史や海域アジア史研究の現状と課題を理解する。</p> <p>[授業概要] 日本中世史や海域アジア史に関する重要な論著を読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海域アジア史研究の現状(1) 3. 海域アジア史研究の現状(2) 4. 受講生の関心のある分野の研究の現状(1) 5. 受講生の関心のある分野の研究の現状(2) 6. 論著講読(1) 7. 論著講読(2) 8. 論著講読(3) 9. 論著講読(4) 10. 論著講読(5) 11. 論著講読(6) 12. 論著講読(7) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] テキストを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に随時指示する。</p>			

科目名	日本史学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	近世の治水と民衆		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講義では、①近世の治水政策と民衆とのかかわりの具体的内容を理解する、②それを通して新たな近世治水史研究の方法を理解する、の2点を到達目標とする。			
[授業概要] 近世の治水政策は幕府や領主によって策定され、実行されたが、それに民衆がどのようにかかわったのかという視点は重要である。たとえば、宝永元年(1704)に幕府は大和川の付替を断行するが、それに至るまでには付替推進派村々と付替反対派村々の広域的な訴願運動があり、それが幕府の判断に一定の影響を与えたことは疑いないところである。また、18世紀中期になると、淀川水系の治水政策をめぐる、流域村々が連合して幕府に積極的な提言をするようになる。一方、土木業者による営利的な治水政策の提言も見られるようになる。これらは、郡中議定や国訴に示される民衆運動の進展、あるいは田沼政権の性格などと密接な関係を有している。しかし、これまでの治水史研究を振り返ると、治水政策と民衆とのかかわりという側面について掘り下げた分析を加えたものは少ない。講義では、上方の幕府治水政策を中心に取り上げ、治水政策と民衆とのかかわりについて考えてみたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 随時、近世の治水に関する文献や近世民衆の広域訴願運動について書かれた文献を紹介するので、それを読んでおくこと。			
[授業計画] 1.講義のねらい 2.近世治水についての研究史 3.近世広域訴願運動についての研究史 4.近世上方における河川の状況 5.幕府派遣役人の川筋見分と村々(17世紀) 6.幕府派遣役人の川筋見分と村々(18世紀) 7.宝永元年(1704)の大和川付替と民衆(1) 8.宝永元年(1704)の大和川付替と民衆(2) 9.18世紀における淀川治水と民衆(1) 10.18世紀における淀川治水と民衆(2) 11.治水技術と民衆(1) 12.治水技術と民衆(2) 13.授業のまとめ			
[成績評価方法] 期末試験のみによる。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 『近世広域支配の研究』 著者名:村田路人 出版社:大阪大学出版会 (ISBN4-87259-015-5) 『日本史リブレット93 近世の淀川治水』 著者名:村田路人 出版社:山川出版社 (ISBN978-4-634-54705-6)			

科目名	日本史学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	近世における領主治水		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講義では、①近世における領主治水の具体的な内容と特質を理解する、②それを通して近世支配における治水の位置づけを理解する、の2点を到達目標とする。			
[授業概要] 近世治水は、豊臣政権や江戸幕府の国家支配権に基づく治水と、個別領主による治水の二種に分類することができる。前者については、豊臣政権機以降幕末期まで畿内で行われていた国役普請が代表的なものであり、研究の蓄積もある。後者は、大名・旗本・天皇家・公家・寺社等の個別領主による治水であり、一部大名による大規模治水事業が知られている。いずれも未解明の部分が多く残されているが、特に後者については、個別領主の多様性により、統一的な治水像を描くことは困難である。本講義では、個別領主の種類ごとにどのような治水が行われていたのかを具体的に検討することを通して、個別領主の規模(基本的には知行高の多寡)により治水がどのように異なるのか、独力では治水をなしえない小規模領主はどのような治水を行っていたのかについて明らかにしたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 随時、近世支配に関する必読文献を紹介するので、それを読んでおくこと。			
[授業計画] 1.講義のねらい 2.近世支配の特質 3.戦国・織豊政権期における大名の治水策 4.徳川政権期における大名の治水事業(17世紀) 5.徳川政権期における大名の治水事業(18・19世紀) 6.藩の治水機構と治水1 7.藩の治水機構と治水2 8.旗本の治水1 9.旗本の治水2 10.寺社領における治水 11.天皇家領・公家領における治水 12.個別領主治水の特質 13.授業のまとめ			
[成績評価方法] 期末試験			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 『近世広域支配の研究』 著者名:村田路人 出版社:大阪大学出版会 (ISBN4-87259-015-5) 『日本史リブレット93 近世の淀川治水』 著者名:村田路人 出版社:山川出版社 (ISBN978-4-634-54705-6) [増補]洪水と治水の河川史—水害の制圧から受容へ— 著者名:大熊孝 出版社:平凡社 (978-4-582-76611-0)			

科目名	日本史学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	近現代日本の軍隊と都市地域社会		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年日本史学界において盛んになりつつある軍隊と地域社会との関わりについて、主として明治期を中心に、軍隊の誘致によって都市形成を図ろうとしたいくつかの都市について考察を加え、近代日本の特質に迫る講義を行う。論拠となる史料の読解を中心に据えて、史料を基にした実証の能力が養成されることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 軍隊と地域社会との関わりについて、旭川・弘前・豊橋・高田など典型的な「軍都」の事例を検討しつつ、そこでの都市形成と市民のありかたについて考えていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 国立公文書館・アジア歴史資料センターなど近現代史料の原本を閲覧できるサイトが増えているので、各自で頻繁にアクセスする姿勢が求められる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近現代史における軍隊をめぐる研究動向 2. 近代史料の特質と所在 3. 近代史料の解読の実際 4. 明治期の軍隊と地域社会 5. 軍隊と地域社会に関する史料Ⅰ 6. 軍隊と地域社会に関する史料Ⅱ 7. 日清戦争と地域社会 8. 日清戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅰ 9. 日清戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅱ 10. 日露戦争と地域社会 11. 日露戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅰ 12. 日露戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅱ 13. 全体のまとめ <p>[成績評価方法] 受講状況と史料読解能力の向上を見定め、最終的には試験によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 『軍隊を誘致せよ』 著者名:松下孝昭 出版社:吉川弘文館 (978-4-642-05770-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本史学特論IVb	後期	2 単位
サブタイトル	近代日本における軍隊と都市地域社会		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 前期と同じく、軍隊の立地がもたらす地域社会への影響について、史料の読解を含めながら講義する。史料をもとに論証を積み重ね、自己の論理を固めていくという研究姿勢が伝わるがこの講義の目標である。			
[授業概要] 前期に続き、軍隊が立地した都市における市民の意識や都市形成の特質を講じる。後期は特に都市の形成の側面に焦点をあて、軍隊が立地したことで、鉄道・道路・水道・商店・遊廓といった都市インフラの構築がいかに進んだかを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史の史料に親しみ、積極的に活用して論証しようとする姿勢を持つておくことが重要である。			
[授業計画] 1. 都市と軍隊をめぐる研究動向 2. 都市史研究の実際 3. 近代史料の特質と所在 4. 軍隊の立地と鉄道(1) 5. 軍隊の立地と鉄道(2) 6. 都市インフラとしての水道 7. 軍用水道の敷設 8. 軍隊の立地と水道 9. 中間的なまとめ 10. 営門前の商店街の繁栄 11. 軍隊の御用商人 12. 軍隊の立地と遊廓 13. 総括的なまとめ			
[成績評価方法] 受講状況と理解力の向上を見定め、うえ、論述式の試験を実施して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] なし			
[参考書 (ISBN)] なし			

科目名	日本史学特論Va	前期	2単位
サブタイトル	葬送と祭祀の考古学		
担当者	齋藤 瑞穂		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

- ①多様な史資料を駆使して過去を復原する方法を理解する。
- ②葬送や祭祀がどのように社会を動かしてきたかをよく理解し、自らの考えを加えて説明することができる。

[授業概要]

モノを研究の対象とする考古学では、「どのように作られたか」と「どのように出土したか」を精確に把握したうえで、「なぜそのように作られたのか」、「なぜそこで(それと)出たのか」へと思索を進めて歴史を叙述する。この講義では、葬送と祭祀といった人の心に焦点をあてる。死者が旅立った先を我々はどのように作り上げてきたのか、何がその像を変えてきたのか、それを考えていくのが本講義である。また、人々が執り行ってきた祭祀についても考察する。人々は何を願ってきたのか、「神」とはどのような関係を取り結んできたのか、これら難度の高そうな問題を皆さんと一緒に挑戦してみたい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

講義でとりあげる葬送関係資料や祭祀遺物について、事前に博物館・史料館、埋蔵文化財センター、教育委員会などで見学し、あらためて実物をよく観察してほしい。自身の主題と関係する資料については、実測等の調査を積極的にを行い、自分なりの考えを作るとよい。

[授業計画]

1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方
2. 葬送行為の開始
3. 生者と死者の分離
4. 黄泉国神話と古墳時代の葬送儀礼
5. 中世寺院の実像
6. 聖と俗の人類史
7. 呪(まじな)いの考古学
8. 占いの考古学
9. 石造供養塔の世界
10. 銅鏡と石室からみた四神思想
11. 弥生のシャーマン
12. 縄文土偶研究の最前線
13. まとめ

[成績評価方法]

リアクションペーパー(100%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

資料を配布する

[参考書(ISBN)]

古代史の論点5 著者名:金関恕・佐原真編 出版社:小学館(978-4096265055)

黄泉国の成立 著者名:土生田純之 出版社:学生社(978-4311304699)

縄文時代の考古学9 著者名:小杉 康ほか編

出版社:同成社(978-4886213945)

墓と葬送の中世 著者名:狭川真一編 出版社:高志書院(978-4862150233)

科目名	日本史学特論Ⅴb	後期	2 単位
サブタイトル	考古学の方法と叙述の前提を考える		
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学の概念・方法の前提を咀嚼し、説明できる。 歴史学としての考古学が重視してきた転換点について、その理論的前提を説明できる。			
[授業概要] 考古学の研究対象がモノ資料であるとしても、モノ資料の変遷史を描くこと—どのような形からスタートして今に到ったのか？—が研究の最終目的ではもちろんない。モノ資料には作った人、運んだ人、使った人、捨てた人がいるはずで、考古学の目的はそれら過去の人々が辿った道を解明することにある。個別具体的な事実を総合し、あるいは因果関係を読み解くなどしてこの作業を進めることを、「歴史を叙述する」という。しかし歴史は、無限の事実を漫然と寄せ集めれば再構成できるわけでない。特にどの点をとりあげるべきか、何に結び付けることができるか、何を基準にするか等の前提・学説・理論がそこにある。 本講義では、これまでの歴史学者・考古学者たちが考え抜き、我々に残してくれたこの部分の解説を試みる。もちろん前提・学説・理論も不変のものでなく、様々な影響を受けて変容してきた。この講義は、社会情勢がどのように影響したかなどをあわせて論じていきたいと思う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業計画に掲げた主題はどのように説明されてきただろうか。また、そこにはどのような理由が述べられているだろうか。いくつかの概説書を紐解いてこれらの点に注目し、見比べてみてほしい。自身のテーマ・時代と関係する主題については、議論の経過を整理し、自分の理解をまとめておくこと。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 考古資料論 3. 考古学成立の背景(1) 4. 考古学成立の背景(2) 5. 層位論 6. 型式学 7. 考古学調査の実際 8. 生業論 9. 交易・交換論 10. 社会考古学 11. こころの考古学 12. 考古学は誰のためにあるのか、歴史は誰のものか？ 13. まとめ			
[成績評価方法] リアクションペーパー(100%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 資料を配布する			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本民俗学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	現代民俗学の方法と実践 (1)		
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 現代民俗学の方法論と事例研究を扱った論文を精読することにより、自分自身の方法論を確立していくことを目標とする。</p> <p>[授業概要] 現代日本の民俗事象を捉えるための方法論を模索した論文群を講読する。狭い意味での民俗学の領域にとどまらず、文化人類学や社会学の領域にまで視野を広げ、現状を打破して新たな研究方法を開くための道筋を模索したい。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 配付論文の予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 「民俗調査」の認識論 3. ノスタルジアと伝統文化の再構成 4. ふるさとイメージをめぐる実践 5. 現地の人々の声 6. オリエンタリズム批判と文化人類学 7. 言説としての人類学 8. 人類学とサバルタンの主体的関与 9. 文化の客体化 10. 現代日本における観光と地域社会 11. 伝統、本物か、にせ物か 12. ポストモダン人類学の再検討 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本民俗学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	現代民俗学の方法と実践 (2)		
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 現代民俗学の方法論と事例研究を扱った論文を精読することにより、自分自身の方法論を確立していくことを目標とする。</p> <p>[授業概要] 現代日本の民俗事象を捉えるための方法論を模索した論文群を講読する。狭い意味での民俗学の領域にとどまらず、文化人類学や社会学の領域にまで視野を広げ、現状を打破して新たな研究方法を開くための道筋を模索したい。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 配付論文の予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 中央と地方の入り組んだ関係 3. 「土着コスモポリタニズム」の可能性 4. 有機的知識人への道 5. 宮本常一の民俗学 6. 旅の経験と民俗学の構想 7. 宮本常一の民俗誌 8. 民俗学と地域振興 9. 観光と民俗芸能 10. 記憶から声へ 11. 当事者の声と民俗誌 12. 現代民俗誌への模索と課題 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	日本民俗学特論a	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学の理論と研究方法 (1)		
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 民俗学の理論の系譜を理解し、具体的な事例に即した研究方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 民俗学は一般の生活者である民衆の文化の総合的な理解を目指す学問であり、これまでにさまざまな考察がおこなわれてきた。この授業では、これまでの研究の中から現在の研究にも有効な理論の枠組みを検討する作業をおこないながら、さまざまな具体例に即してどのような研究方法が有効かを考察していく。 「構造分析」「フィールドワーク」「観光文化」「近代化」「地方と中央」などが講義におけるキーワードとなる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付する資料にもとづいて予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法の変遷と時代背景 2. 昔話の構造分析(1) 3. 昔話の構造分析(2) 4. フィールドワーク論(1) 5. フィールドワーク論(2) 6. 観光文化論(1) 7. 観光文化論(2) 8. 近代化論(1) 9. 近代化論(2) 10. 地方と中央(1) 11. 地方と中央(2) 12. 有機的知識人論 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『[増補版]民族誌的近代への介入—文化を語る権利は誰にあるのか(叢書文化研究)』 著者名:太田好信 出版社:人文書院 (978-4409530399)</p>			

科目名	日本民俗学特論b	後期	2 単位
サブタイトル	民俗学の理論と研究方法(2)		
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 民俗学の理論の系譜を理解し、具体的な事例に即した研究方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 民俗学は一般の生活者である民衆の文化の総合的な理解を旨とする学問であり、これまでにさまざまな考察がおこなわれてきた。この授業では、これまでの研究の中から現在の研究にも有効な理論の枠組みを検討する作業をおこないながら、さまざまな具体例に即してどのような研究方法が有効かを考察していく。 具体的な内容としては、遠野のフィールドワークにもとづく事例とその分析、宮本常一の民俗学の可能性と限界、観光と地域社会といったテーマをめぐって、研究の焦点がどこに当てべきかを検討を進める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と伝承文化 2. 民俗文化の自己表現と解釈(1) 3. 民俗文化の自己表現と解釈(2) 4. 宮本常一の民俗学(1) 5. 宮本常一の民俗学(2) 6. 伝統文化と観光(1) 7. 伝統文化と観光(2) 8. 公共民俗学(1) 9. 公共民俗学(2) 11. 現代民俗誌と現地の声(1) 12. 現代民俗誌と現地の声(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『民族誌的近代への介入—文化を語る権利は誰にあるのか(叢書文化研究)』 著者名:太田好信 出版社:人文書院 (978-4409530399)</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて自発的に史資料の収集を行い、目指すべき課題の解決に向けて準備を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文作成に向けて		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、主体的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておく。</p> <p>[授業計画] 各自の学位論文の作成進度を考慮しながら、相談のうえで13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 論文の進展度・内容および受講態度を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文作成に向けて		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	村田 路人		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 修士論文の作成</p> <p>[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 受講生による報告1 3. 受講生による報告2 4. 受講生による報告3 5. 受講生による報告4 6. 受講生による報告5 7. 受講生による報告6 8. 受講生による報告7 9. 受講生による報告8 10. 受講生による報告9 11. 受講生による報告10 12. 受講生による報告11 13. 受講生による報告12 <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向け史資料収集を行い、史料批判の準備をしておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 演習の準備や提出物など総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておく。</p> <p>[授業計画] 各自の学位論文の作成進捗を考慮しながら、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 完成した論文の内容および受講態度を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	村田 路人		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 修士論文の作成</p> <p>[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生による報告1 2. 受講生による報告2 3. 受講生による報告3 4. 受講生による報告4 5. 受講生による報告5 6. 受講生による報告6 7. 受講生による報告7 8. 受講生による報告8 9. 受講生による報告9 10. 受講生による報告10 11. 受講生による報告11 12. 受講生による報告12 13. 受講生による報告13 <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

教育学専攻

科目名	教育学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	教育哲学・教育思想の探究①		
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1 教育の哲学や思想について深く考え、教育現実との関連を捉える。			
2 教育の哲学や思想を理解し、分かりやすく表現できる。			
[授業概要]			
本授業では、教育哲学や教育思想について読解を進め、その知の吸収だけでなく、それをわかりやすく表現していくことを目指す。これまで学んできた教育概念には収まらない、原著からみた新教育思想、日本の伝統的な教育概念、臨床哲学について「読解、発表、討議、まとめ」を通じて、探究していきたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
予習としては、与えられた指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。			
[授業計画]			
1 デューイ『経験と教育』①読解			
2 デューイ『経験と教育』②発表と討議			
3 デューイ『経験と教育』③まとめ			
4 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』①読解			
5 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』②発表と討議			
6 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』③まとめ			
7 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』①読解			
8 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』②発表と討議			
9 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』③まとめ			
10 鷺田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』①読解			
11 鷺田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』②発表と討議			
12 鷺田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』③まとめ			
13 全体のまとめ			
[成績評価方法]			
プレゼン内容(レジュメ)(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
『経験と教育』 著者名:デューイ 出版社:講談社(4061596802)			
『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』 著者名:矢野智司 出版社:金子書房(4760894063)			
『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』 著者名:生田久美子 出版社:慶應義塾大学出版会(4766418042)			
『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』 著者名:鷺田清一 出版社:筑摩書房(448009668X)			
[参考書(ISBN)]			
なし			

科目名	教育学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	教育哲学・教育思想の探究②		
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1 教育の哲学や思想について深く考え、教育現実との関連を考える。			
2 教育の哲学や思想を理解し、分かりやすく表現できる。			
[授業概要]			
本授業では、教育哲学や教育思想について読解を進め、その知の吸収だけでなく、それをわかりやすく表現していくことを目指す。教育学演習 I aに引き続き、これまで学んできた教育概念には収まらない、原著からみた新教育思想、人間形成の概念、臨床哲学について「読解、発表、討議、まとめ」を通じて、探究していきたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
予習としては、与えられた指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。			
[授業計画]			
1 コメニウス『世界図絵』①読解			
2 コメニウス『世界図絵』②発表と討議			
3 コメニウス『世界図絵』③まとめ			
4 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』①読解			
5 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』②発表と討議			
6 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』③まとめ			
7 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』①読解			
8 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』②発表と討議			
9 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』③まとめ			
10 鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』①読解			
11 鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』②発表と討議			
12 鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』③まとめ			
13 全体のまとめ			
[成績評価方法]			
プレゼン内容(レジュメ) (70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
『世界図絵』 著者名:コメニウス 出版社:平凡社 (4582761291)			
『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』 著者名:今井康雄			
出版社:世織書房 (4906388647)			
『動物絵本をめぐる冒険』 著者名:矢野智司 出版社:勁草書房 (4326298723)			
『じぶん・この不思議な存在』 著者名:鷺田清一 出版社:講談社 (4061493159)			
[参考書 (ISBN)]			
なし			

科目名	教育学演習Ⅲa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 国語科教育の研究を行うための基本的な力を身につけるために、先行論文の読み合わせとそれに関する討議を行う。先行研究を批判的に読むことを通して、自分自身の修士論文作成についてしっかりと考えて欲しい。</p> <p>[授業概要] 国語科教育における3つの領域、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議を中心に展開する。実際には、受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 興味・関心調査 ICT活用について 2. 「話すこと・聞くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 3. 「話すこと・聞くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 4. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 5. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 6. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(3) 7. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 8. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 9. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(3) 10. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(4) 11. その他の要素に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 12. その他の要素に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り <p>※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 出版社: ()</p>			

科目名	教育学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 国語科における「学力評価」について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語るができるようになって欲しい。</p> <p>[授業概要] まず、自分自身の国語科における「学力評価」に対する認識を目に見える形にすることから始める。授業実践の意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。項目ごとにレポートと討議を重ねていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 国語科における「学力評価」についての自分の考えを書く 2. 〈時期〉に関するレポートと討議 3. 〈期間〉に関するレポートと討議 4. 〈個別化〉に関するレポートと討議 5. 〈感性〉に関するレポートと討議 6. 〈経験〉に関するレポートと討議 7. 〈観察〉に関するレポートと討議 8. 〈言語活動〉に関するレポートと討議 9. 〈自己評価〉に関するレポートと討議 10.〈他者評価〉に関するレポートと討議 11. 〈フィードバック〉に関するレポートと討議 12.〈評価から評定へ〉に関するレポートと討議 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>			

科目名	教育学演習Ⅳa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 生涯にわたり、子どもが健全な人間として生きるために必要にして十分な学習課題や、初等教育の基礎段階である就学前教育における指導の在り方も含めて理論的考察を加え、これらに携わる者としてふさわしい幅広い角度からの専門性を修得させることを目的とする。この演習の中で得られた知識や技法を基に、就学前教育教員としての理論に支えられた実践的職能の一層の形成が期待される。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 多様なイデオロギーに基づく就学前カリキュラムの分析を通して、幼児期の子どもの成長・発達を見ずえたカリキュラムの在り方について考察する。また、保育改善のための資質形成の観点から、「教授－学習」過程に関する理論や教育心理学のアプローチによる授業研究法を視野に入れながら検討し、演習する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. カリキュラム開発の理論と方法 2. カリキュラム評価と保育改善 3. 評価と保育・教育改善 4. カリキュラムの事例分析1 5. カリキュラムの事例分析2 6. カリキュラムの事例分析3 7. 教育方法研究の考え方・進め方 8. 保育・授業研究法の理論1 9. 保育・授業研究法の理論2 10. 保育・教育研究の実際1 11. 保育・教育研究の実際2 12. 保育・教育研究の実際3 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	教育学演習IVb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 近代幼児教育思想をふまえながら、現代の日本の保育・幼児教育に多大な影響を与えた倉橋惣三の教育に関する考え方について究明する。また、彼の考えを理解することで、現代の子どもを取り巻く様々な問題を解決するための知見を得たい。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 本演習では、倉橋惣三の著作を講読する。テキストは倉橋惣三選集のなかから、その都度受講者と相談し、受講者の研究スタンスなどを考慮に入れて選択する。授業は受講者の文献研究の内容や趣旨についての報告を中心に、問題提起、ディスカッションによって理解を深める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 講読とディスカッション1 3. 講読とディスカッション2 4. 講読とディスカッション3 5. まとめ(発表) 6. 講読とディスカッション4 7. 講読とディスカッション5 8. 講読とディスカッション6 9. まとめ(発表) 10. 講読とディスカッション7 11. 講読とディスカッション8 12. 講読とディスカッション9 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	教育学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	幼児教育の哲学・思想		
担当者	山内 紀幸		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

- 1 幼児教育の哲学や思想について深く考える、
- 2 幼児教育の哲学や思想と保育現実との関連を捉える。

[授業概要]

本授業では、幼児教育・保育について教育思想について理解し、その知見をもとに保育現実との関連を捉える力を養っていく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

予習としては、指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。

[授業計画]

- 1 保育というひとつの物語
- 2 「保育」という営みの始まり
- 3 教育思想家たちの子ども中心主義
- 4 世界の子育て
- 5 「家族」と「学校」、そして「幼稚園」の誕生
- 6 保育文化の生成
- 7 これからの保育物語の生成
- 8 自己言及する保育学
- 9 保育の語りの創造: 保育の「いま・ここ」を切り取る概念
- 10 保育行為の臨床哲学
- 11 保育ジャーゴンの研究
- 12 「学びの評価言語」試論
- 13 全体のまとめ

[成績評価方法]

総括レポート(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

ナラティヴとしての保育学 著者名:磯部裕子・山内紀幸 出版社:萌文書林 (4893471015)

[参考書(ISBN)]

なし

科目名	教育学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	人間形成の哲学・思想		
担当者	山内 紀幸		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間形成の哲学や思想について深く考える、 2 人間形成の哲学や思想と教育現実との関連を捉える。 <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、人間形成について教育思想について理解し、その知見をもとに教育現実との関連を捉える力を養っていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>予習としては、指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 争い: 『Dragon Night』より 2 伝える: 伝えることと伝わること 3 友達: アリストテレスの3つの友情 4 GRIT: 「やりぬく力」とは 5 才能: 「しなやかマインドセット」 6 針路: 風はすべて追い風 7 贈与: 羽生選手と大谷選手の共通点 8 感謝: アスリートはなぜその言葉を口にするのか 9 宿命: ショーペンハウワーに学ぶ 10 顔: レヴィナスの他者論 11 存在肯定: 「ええねん」とニーチェ 12 悪: ハンナ・アーレントの抵抗 13 笑い: 笑い方に表れる人間性 <p>[成績評価方法]</p> <p>総括レポート(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>『ちょっと変わった校長式辞集: 教育哲学者からのメッセージ』 著者名: 山内紀幸 出版社: 一藝社 (486359237X)</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし</p>			

科目名	教育学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 「読むこと」の学習指導について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語るができるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の「読むこと」に関する認識を目に見える形にする。その意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. ある文章を(読む)とは、「何を」「どういう方法で」おこなうことであるか。 3. 2を踏まえた討議 4. 学力調査の基礎理論 5. 学力調査における読解—問いの解析— 6. 学習指導要領が求める読解・読書指導 7. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(1) 8. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(2) 9. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(3) 10. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(1) 11. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(2) 12. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(3) 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし 著者名: 出版社: ()			

科目名	教育学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 「書くこと」について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語るができるようになって欲しい。			
[授業概要] まず、自分自身の「書くこと」に対する認識を目に見える形にすることから始める。授業実践の意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。具体的な教材を取り上げ、教材研究から授業実践へと展開する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. ある文章を(書く)とは、「何を」「どういう方法で」おこなうことであるか。 3. 2を踏まえた討議(1) 4. 書くことの基礎理論(1) 5. 書くことの基礎理論(2) 6. 学習指導要領が求める書くことの指導 7. 全国学力・学習状況調査の分析 8. 書くことの教材研究の方法と授業実践(1) 9. 書くことの教材研究の方法と授業実践(2) 10. 書くことの教材研究の方法と授業実践(3) 11. 書くことと言語活動との関係(1) 12. 書くことと言語活動との関係(2) 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 初等教育の基礎段階である就学前教育におけるカリキュラムに関して、歴史的・政策的、実践的・開発的な観点から理論的考察を加えるなかで、教育実践者として幅広い高度な専門性を修得させることを目的とする。この講義の中で得た知識や技法を基に、就学前教育に関係する者として、理論に支えられた実践的職能のさらなる形成を目指す。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] カリキュラム研究の方向性を示しつつ、就学前教育カリキュラムの成立過程における多様な力学を分析することで、児童中心主義による望ましいカリキュラム開発の視座について検討する。さらに、そこから導き出されるカリキュラム実践者として必要となる知識や技能を模索することで、具体的な職能の形成につなげていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. カリキュラム研究の諸相 3. 就学前教育カリキュラムの多様性と公共性 4. 就学前教育カリキュラム・イデオロギーの発達と構造(児童中心イデオロギーの位相、教育視座と構造) 5. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座1(公的カリキュラムの変遷と視座) 6. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座2(『幼稚園教育要領』の枠組みと視座) 7. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造1(事例からの分析) 8. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造2(幼稚園の教育目標構造と特性) 9. 指導計画のフォームとイデオロギー(カリキュラム構造と指導計画、イデオロギー変換とフォーム) 10. カリキュラム開発の方策と視座1(カリキュラム開発の次元) 11. カリキュラム開発の方策と視座2(革新的カリキュラム開発) 12. カリキュラム開発の方策と視座3(幼稚園における開発事例) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	教育学特論IVb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>○</p> <p>[到達目標] 本授業では、今日の保育や幼児教育につながる教育思想を学び、研究することを通して、読み取り、感じ取り、自ら考えながら、今日の激動の時代において新たな教育実践を創造していくための教養と洞察力・感性の育成を目指す。 また、幼児教育思想の系譜を検討し、子育てや保育、幼児の教育をめぐる価値意識や実践を洗い出すとともに、それらを醸成した歴史的・社会的な要因についても追求していく。受講者の教育観が洗練され、子どものふさわしい育ちを保障する認識図式が柔軟かつ強靱、複眼的に形成されていくことを目標とする。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 演習・講義形式をとりながら、子どもの視点に立った保育・幼児教育の源流となる西洋や日本の幼児教育思想を概観し、今日の保育・教育実践を支える考え方について考察していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ教育思想史を学ぶのか 2. 古代ギリシャ・ローマ 3. 中世ヨーロッパ 4. エラスムス 5. ルソー 6. ペスタロッチ 7. フレーベル 8. デューイ 9. モンテッソーリ 10. カイヨフ 11. 貝原益軒 12. 倉橋惣三 13. まとめ <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	教育心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	心理学データ処理法		
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 教育心理学の研究および教育評価や教育心理学分野での資料整理において必要となるさまざまな統計的データ処理の方法を、事例に基づきながら実践的に学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 基本的方法を学んだあと、主要な多変量データ解析法を中心に、具体的事例を通して学び、手法を習得していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回までに提出予定の演習課題を仕上げる。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 基本的な統計法(1)記述統計 3. 基本的な統計法(2)推測統計 4. 相関係数(1) 5. 相関係数(2) 6. クラスタ分析(1) 7. クラスタ分析(2) 8. 重回帰分析(1) 9. 重回帰分析(2) 10. 因子分析(1) 11. 因子分析(2) 12. 共分散構造分析 13. まとめと学習の確認 <p>[成績評価方法] 課題提出によって評価する フィードバックは成績問合せに対応して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (x)</p> <p>[参考書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (x)</p>			

科目名	教育心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	心理学データ処理法		
担当者	久木山 健一		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育心理学演習 I aで学んだ知識に基づき、実際に応用的な調査を行うことを目的とします。調査の計画, 作成, 実施, 得られたデータの分析, 結果のまとめ, 考察などのプロセスを自身で行い, さらにそれを科学的なレポートにまとめることを通じて心理調査に関する発展・展開的な実力を身につけることを目標とします。			
[授業概要] 基本的方法を学んだあと、主要な多変量データ解析法を中心に、具体的事例を通して学び、手法を習得していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 演習の時間は主に自身の提出した資料に対して他者から意見をもらうことに使われますので、その資料の作成のための事前事後の学習が重要となります。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 他者から得られた意見を元に自身の提出物の修正を行う(105分程度)			
[授業計画] 1 ガイダンス: 演習の目標, 進め方などについて説明する。 2 調査計画1「調査テーマ決定」: 調査をしたいことについて各自の関心を持ち寄り, 他の受講生との話し合いを通じて自身の調査テーマの決定を行う。 3 調査計画2「先行研究の確認」: 自身の調査テーマに関する先行研究を調べ, それらをまとめた上で自身の調査テーマとの位置づけを確認する。 4 調査計画3「調査仮説の設定」: 自身の調査テーマにそくして調査を行う際の仮説を設定し, 他の受講生との話し合いを通じて自身の調査仮説の決定を行う。 5 調査方法1「調査方法の考案」: 自身の調査仮説を明らかにするために必要な方法について, 実験, アンケート, 面接, 観察などの手法より適切なものを選び, その具体的内容について考える。 6 調査方法2「調査方法の決定」: 調査方法1「調査方法の考案」で考案した調査方法について, 他の受講生との話し合いや, 他の受講生を対象とした予備調査などを通じて調査方法の調整を行い, 調査方法の最終決定を行う。 7 調査実施: 調査を実際に行い, 得られたデータを整理して分析可能なデータを作成する。 8 データ分析1: 調査仮説に基づいたデータ分析を行い, 得られた結果を整理する。 9 データ分析2: データの分析結果を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとにデータ分析法の確認を行う。 10 調査結果の考察1: データ分析で得られた結果を総括し, 調査仮説に基づいた考察を行う。 11 調査結果の考察2: 調査結果の考察1で作成した考察を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとに考察内容の確認を行う。 12 調査のまとめ1: これまでの一連の調査について, 「問題と目的」, 「方法」, 「結果」, 「考察と展望」, 「文献」からなるレポートを作成する。 13 調査のまとめ2: 調査のまとめ1で作成したレポートを考察を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとにレポート内容の修正を行う。			
[成績評価方法] 課題提出によって評価する フィードバックは成績問合せに対応して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] 講義内で紹介する 著者名: x 出版社: x (x)			
[参考書 (ISBN)] 講義内で紹介する 著者名: x 出版社: x (x)			

科目名	教育心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	対人関係の心理学		
担当者	久木山 健一		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 児童・生徒のソーシャルスキル教育に必要な知識と実践力, ソーシャルスキル教育を通じた学級の仲間関係の調整能力, 学校不適応などの問題についてソーシャルスキル教育を通じて解決できる能力を身につけることを目標とする。			
[授業概要] 充実した対人関係に関係するソーシャルスキルについて理解し, 児童生徒のソーシャルスキルがどのように育ち育てていくのかについて総合的に理解することを通じて, 児童生徒各自の人間関係調整能力を育むだけでなく, その総体としての円滑な学級経営ができるようになることを目指す。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および関連資料を復習し, 次回に予定されている内容に関連する資料を事前に作成した上で授業に臨むことが求められる。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 講義時に得られた意見を元に自身の資料の修正を行う(105分程度)			
[授業計画] 1. 社会性とソーシャルスキル 2. ソーシャルスキルの定義 3. ソーシャルスキルの代表的理論 4. ソーシャルスキルと社会的適応 5. 社会的情報処理理論(1) 6. 社会的情報処理理論(2) 7. ソーシャルスキルと学習過程(1) 8. ソーシャルスキルの学習過程(2) 9. ソーシャルスキルトレーニング(1) 10. ソーシャルスキルトレーニング(2) 11. ソーシャルスキルの測定の問題(1) 12. ソーシャルスキルの測定の問題(2) 13. まとめと学習の確認			
[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名: × 出版社: × (×)			
[参考書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名: × 出版社: × (×)			

科目名	教育心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	発達環境の心理学		
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] さまざまな発達環境ごとに、その中での児童生徒の活動と社会性の発達との関連の様相について具体的に理解するだけでなく、児童生徒の発達環境との関わり方や発達環境に働きかけることを通じて児童生徒の社会性の発達を促進できる能力を向上することを目指す。</p> <p>[授業概要] 主に社会性に注目しながら、学校、家庭、地域社会、ネット環境などのさまざまな環境の中での学びがどのように児童生徒の発達に関連するのかについて総合的に理解する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および関連資料を復習し、次回に予定されている内容に関連する資料を事前に作成した上で授業に臨むことが求められる。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 講義時に得られた意見を元に自身の資料の修正を行う(105分程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達環境とは 2. 発達環境に関する諸理論 3. 学校環境と社会性発達(1) 4. 学校環境と社会性発達(2) 5. 家庭環境と社会性発達(1) 6. 家庭環境と社会性発達(2) 7. 仲間関係と社会性発達(1) 8. 仲間関係と社会性発達(2) 9. 地域参加と社会性発達(1) 10. 地域参加と社会性発達(2) 11. ネット環境と社会性発達(1) 12. ネット環境と社会性発達(2) 13. まとめと学習の確認 <p>[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (×)</p> <p>[参考書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (×)</p>			

科目名	臨床心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	心理検査法演習		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 臨床心理アセスメントにおいて用いられる心理テストのうち代表的なものについて、その実施方法や解釈技法についての理解を深める。			
[授業概要] 本演習では、とくに投影法と呼ばれる検査に焦点をあて、その施行結果からクライアント理解のためにどのような解釈が可能か具体的に検討する。ここでとりあげる投影法には、ロールシャッハテストやバウムテスト、人物画などの描画法が含まれる。これらのテストに習熟するためにはどのような視点を身につけることが必要か、また、実際にクライアントを援助するために有効なテスト所見とはどのようなものであるか、といったことについて理解を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 演習で学んだテスト法について毎回振り返ることにより、その実際を確認しておくこと。			
[授業計画] 1. 心理テストの種類と特徴 2. 投影法の基礎 3. PFスタディについて;スコアリング 4. PFスタディについて;解釈の実際 5. 描画法;人物画法 6. 描画法;バウムテスト 7. ロールシャッハテスト;スコアリング1 8. ロールシャッハテスト;スコアリング2 9. ロールシャッハテスト;スコアリング3 10. ロールシャッハテスト;解釈の実際1 11. ロールシャッハテスト;解釈の実際2 12. その他の投影法 13. まとめ			
[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業時に資料を配布する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。			

科目名	臨床心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	発達臨床心理学演習		
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 本演習では、児童福祉領域における臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという福祉心理臨床学的視点を習得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 子どもの発達上の問題や情緒的問題を具体的にとり上げ、それらの概念と実際の子どもの行動特徴を明らかにしたうえで、臨床心理学的な立場からどのようなアプローチが可能か検討していく。その際、心理療法理論に基づくアプローチと、発達心理学的理解に基づくアプローチとを統合する視点が必要であることを詳述し、援助のあり方を見定めていくために求められる実践的な姿勢について検討する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回学んだ内容について整理し、学部における教育実習などで出会った実際の子どもたちの様子と照らし合わせながら、具体的な理解を深めるように努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自閉スペクトラム症; 概念 2. 自閉スペクトラム症; 援助のあり方 3. 注意欠如/多動症; 概念 4. 注意欠如/多動症; 援助のあり方 5. 限局性学習症; 概念と援助のあり方 6. 知的能力障がい; 概念と援助のあり方 7. 子どもの不安障がい; 概念と援助のあり方 8. 子どもと心的外傷; 概念と援助のあり方 9. 子ども虐待; 概念と現状 10. 子ども虐待; 援助のあり方1 11. 子ども虐待; 援助のあり方2 12. ひきこもり; その理解と援助のあり方 13. その他の情緒的諸問題と援助のあり方 <p>[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時紹介する。</p>			

科目名	臨床心理学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 心理療法の中でも特に芸術療法(音楽療法を中心に)に焦点をあて、non-verbal communication のもつ意味を考えながら、近年、様々な領域で求められつつある音楽療法と、その現状及び歴史、対象となる領域などの概論を学ぶ。			
[授業概要] 音楽療法を、音楽を用いた心理療法として捉え、種々の心理療法と比較しながら、その特徴を紹介し、実際のセッション場面を通して検討していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 心理学や臨床心理学、発達心理学の基本の復習を行いながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。授業に関係する社会的動向についても関心をもつこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. 臨床心理学の全般 2. 心理療法の理論と実際1 3. 心理療法の理論と実際2 4. 音楽を用いた心理療法 5. 音楽療法の歴史(諸外国) 6. 音楽療法の歴史(日本) 8. 音楽療法の有効性:生理的作用 9. 音楽療法の有効性:心理的作用 10. 音楽療法の有効性:社会的作用 11. 音楽療法の技法と実際:児童領域 12. 音楽療法の技法と実際:成人領域 13. 音楽療法の技法と実際:高齢者領域			
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業時に随時配布する。			
[参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。			

科目名	臨床心理学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 心理療法を行うには、まず心理アセスメントを通して対象者に合った媒体や手法を吟味することが大変重要である。そして適切な心理アセスメントを行うには、それらの知識を深めると同時に、セラピスト自身の自己理解を忘れてはならない。本講では、演習・発表を通して、セラピストとして重要な自己理解(分析)を深めることにもとりくんでいく。</p> <p>[授業概要] Ⅱaに引き続き、心理療法(特に芸術療法)の実際を学びながら、対象者理解及び自己理解のための演習なども行う。疾患や障害についての知識を深め、その援助方法や様々な心理療法について、各自の発表も取り入れながら考究していく。音楽療法等の実践現場への参加体験も行っていく予定である。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。また、心理臨床実習を体験しながら、毎回のケース記録や分析を行っておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 心理療法(芸術療法)の紹介 2. 芸術療法の理論と実際: コラージュ療法 3. 芸術療法の理論と実際: 描画療法 4. 自己理解演習1 5. 自己理解演習2 6. 自己理解演習3 7. 疾患・障害の理解 1 8. その援助・心理療法1 9. 疾患・障害の理解 2 10. その援助・心理療法2 11. 実践ケース検討1 12. 実践ケース検討2 13. 実践ケース検討3</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業時に必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。</p>			

科目名	臨床心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	児童心理臨床		
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 発達に重篤な問題を示している子どもに対する臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという視点を習得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 情緒発達に重篤な問題を示す子どもたちに対する臨床心理援助のあり方を検討する。このような子どもたちに対する心理的援助のあり方についての検討は、まだ決して十分なものではない。そこでは、心理療法空間だけでなく、子どもの生活全体を通して支援するという視点が求められる。本講では、一方で、たとえば児童養護施設に入所している被虐待児への臨床心理援助のあり方などをとり上げ、またもう一方では、アタッチメント形成とその障がいについて詳しく検討し、その両者の知見を統合させながら心理的援助のあり方について検討していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞やテレビなどで報道される児童虐待などの情報に日ごろから関心を持ち、授業内容と関連づけて考えるように努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童心理臨床の基本1 2. 児童心理臨床の基本2 3. 心理療法と心理的援助 4. 児童福祉施設における子どもたち 5. アタッチメント形成とその障がい1 6. アタッチメント形成とその障がい2 7. アタッチメントの障がいと心理的援助1 8. アタッチメントの障がいと心理的援助2 9. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助1 10. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助2 11. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助1 12. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助2 13. まとめ <p>[成績評価方法] レポートによる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] 授業時に資料を配布する。</p> <p>[参考書 (ISBN)] 必要に応じて紹介する。</p>			

科目名	臨床心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	遊戯療法の理論と技法		
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 本講では、発達途上にある子どもに心理療法(遊戯療法)を実施する際の理論と技法について、詳しくみていく。とくに遊戯療法のプロセスを、力動的な立場から検討することで、子どもへの臨床心理学的援助の実際についての理解を深める。</p> <p>[授業概要] 遊戯療法においても、大人を対象とした心理療法と同様に、セラピストー子ども(クライアント)関係を軸としながら、子どもの内的世界が象徴的に表現され、また、転移・逆転移現象が展開する。その実際を、具体的な事例などをとり上げながら明らかにしていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学部で学んできた発達理論および心理療法理論をあらためて整理し、毎回授業でとりあげられるテーマと照合して理解を深めるよう努める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法における遊戯療法の位置づけ 2. 遊戯療法の理論;クライアント中心療法の立場 3. 遊戯療法の理論;力動論的アプローチ1 4. 遊戯療法の理論;力動論的アプローチ2 5. 遊戯療法における子どもの表現 6. 遊戯療法における転移ー逆転移 7. 遊戯療法の実際;生育歴・家族歴の読み取り1 8. 遊戯療法の実際;生育歴・家族歴の読み取り2 9. 遊戯療法の実際;プロセスの理解1 10. 遊戯療法の実際;プロセスの理解2 11. 家族への臨床心理援助1 12. 家族への臨床心理援助2 13. 関係機関との連携 <p>[成績評価方法] レポートによる</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業時に紹介する。</p>			

科目名	臨床心理学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 人間の成長を生涯発達の視点から捉え、その中で思春期・青年期以降のライフサイクルと各ステージでの課題及びその危機や好発病理について、臨床心理学的知識を深めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 思春期・青年期における課題や、それ以降のライフサイクルと各ステージでの危機や問題を、様々な角度から考究する。同時に発症しやすい疾患や障害についての臨床心理学的理解と対応を検討する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。生涯発達心理学の観点にたち、日頃の社会的事象について関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 発達課題と心理臨床 2. 思春期:発達課題と危機について 3. 思春期:起こりうる問題と対応 4. 青年期:発達課題と危機について 5. 青年期:起こりうる問題と対応 6. 成人期:発達課題と危機について 7. 成人期:起こりうる問題と対応 8. 中年期:発達課題と危機について 9. 中年期:起こりうる問題と対応 10. 高齢期:発達課題と危機について 11. 高齢期:起こりうる問題と対応 12. 様々な疾患・障害の理解1 13. 様々な疾患・障害の理解2</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業時に必要に応じて配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ライフサイクルの臨床心理学 著者名:馬場禮子・永井 徹 共編 出版社:培風館(4-563-05610-3) エピソードでつかむ生涯発達心理学 著者名:岡本祐子 深瀬裕子 編著 出版社:ミネルヴァ書房(987-4-623-06531-8)</p>			

科目名	臨床心理学特論Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] Ⅱaに引き続き、特に思春期・青年期の心身の特性や好発病理についての臨床心理学的理解と、そのメンタルヘルス及び臨床心理学的アプローチの検討を行うことを目標とする。</p> <p>[授業概要] Ⅱaに引き続き、生涯発達の見点から、思春期・青年期以降に見られる疾患や障害についての理解を深めるとともに、特に昨今遷延化している青年期の様々な問題を中心にとりあげ、教育現場や医療現場でのメンタルヘルスのあり方や臨床心理学的アプローチについて学ぶ。また、心身保健学的考察を深めるために随時、受講者の発表やケース報告もとりにいれていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。心理臨床学的対応について、事例研究の文献を読み解き、自身の臨床実習ケース記録や分析の検討もしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 正常・異常とは、病理の理解 2. 思春期の心身の特性 3. 思春期の心身の特性と心理臨床:ケース検討 4. 青年期の心身の特性 5. 青年期の心身の特性と心理臨床:ケース検討 6. 不登校・ひきこもりの実態と心理臨床 7. 摂食障害の実態と心理臨床 8. 自己破壊行為の実態と心理臨床 9. 神経症・心身症の理解と心理臨床 10. 統合失調症、うつ病の理解と心理臨床 11. メンタルヘルスのあり方 12. ケース検討① 13. ケース検討②</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業内で随時資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ライフサイクルの臨床心理学 著者名:馬場禮子・永井 徹 共編 出版社:培風館(4-563-05610-3)</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間以上。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業内で随時配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。授業内で随時紹介する。</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文の作成に関する基礎的なことがらについて知見を深めることをめざす。自分の授業実践や理論について、自分の言葉によって論文にまとめることができるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の国語科に関する修士論文の「テーマ」「先行研究」「基礎理論」についてのレポートをおこない、それをもとに討議を展開する。さらに「目次案」を作成し、「下書き」を書き始めるところまでもっていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするのと同時に、しっかりとしたレポートを用意すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(1) 3. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(2) 4. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(3) 5. 「先行研究」についてのレポートと討議(1) 6. 「先行研究」についてのレポートと討議(2) 7. 「先行研究」についてのレポートと討議(3) 8. 「基礎理論」についてのレポートと討議(1) 9. 「基礎理論」についてのレポートと討議(2) 10. 「基礎理論」についてのレポートと討議(3) 11. 「目次案」についてのレポートと討議(1) 12. 「目次案」についてのレポートと討議(2) 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 紀幸		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 教育哲学・教育思想に関する論文作成の指導を行う。 1 先行研究についての入念なリサーチと概要把握 2 論文作成のための一次資料の読み込み 3 論文作成のための論文作成</p> <p>[授業概要] 学術論文を作成するための個別指導を実施していく。受講者の研究テーマや進度に合わせてながら適時指導を実施し、リサーチ力、読解力、論文作成能力の育成に努める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 適宜、課題を出すので、授業までに課題を遂行しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1 先行研究のリサーチと討議① 2 先行研究のリサーチと討議② 3 一次資料の読解と討議① 4 一次資料の読解と討議② 5 一次資料の読解と討議③ 6 一次資料の読解と討議④ 7 一次資料の読解と討議⑤ 8 一次資料の読解と討議⑥ 9 論文の作成① 10 論文の作成② 11 論文の作成③ 12 論文の作成④ 13 論文の作成⑤</p> <p>[成績評価方法] 発表内容、討議内容、論文内容で総合的に評価する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。適宜紹介する。</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 論文作成に必要な課題への取組み、成果による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:× 出版社:× (×)</p> <p>[参考書(ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (×)</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配布する。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。(なし。)</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文の作成に関する応用的なことがらについて知見を深めることをめざす。自分の授業実践や理論について、自分の言葉によって論文にまとめることができるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の国語科に関する修士論文の下書きについて、「テーマ」の記述、「先行研究」の押さえ、「基礎理論」の記述についてのレポートを行い、それをもとに検討を展開する。さらに、「注記などの面から」確認し、「批判的な点検」まで行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、しっかりとしたレポートを用意すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(1) 3. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(2) 4. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(3) 5. 論文の下書きについてのレポートと検討―「先行研究」の押さえについて―(1)「 6. 論文の下書きについてのレポートと検討―「先行研究」の押さえについて―(2) 7. 論文の下書きについてのレポートと検討―「基礎理論」の記述について―(1) 8. 論文の下書きについてのレポートと検討―「基礎理論」の記述について―(2) 9. 論文の下書きについてのレポートと検討―注記などの面から―(1) 10. 論文の下書きについてのレポートと検討―注記などの面から―(2) 11. 論文の下書きについてのレポートと検討―批判的な点検―(1) 12. 論文の下書きについてのレポートと検討―批判的な点検―(2) 13. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の状況などに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時紹介する。</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育哲学・教育思想に関する論文作成の指導を行う。 1 先行研究についての入念なリサーチと概要把握 2 論文作成のための一次資料の読み込み 3 論文作成のための論文作成			
[授業概要] 学術論文を作成するための個別指導を実施していく。受講者の研究テーマや進度に合わせてながら適時指導を実施し、リサーチ力、読解力、論文作成能力の育成に努める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 適宜、課題を出すので、授業までに課題を遂行しておくこと。			
[授業計画] 1 先行研究の補足リサーチと討議① 2 先行研究の補足リサーチと討議② 3 一次資料の読解と討議① 4 一次資料の読解と討議② 5 一次資料の読解と討議③ 6 一次資料の読解と討議④ 7 一次資料の読解と討議⑤ 8 一次資料の読解と討議⑥ 9 論文の作成① 10 論文の作成② 11 論文の作成③ 12 論文の作成④ 13 論文の作成⑤			
[成績評価方法] 発表内容、討議内容、論文内容で総合的に評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし。適宜紹介する。			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 完成論文および試問による。 フィードバックは成績問合せに対応して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (×)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 講義内で紹介する 著者名:x 出版社:x (×)</p>			